

H24-D1-4 57.75~60.06m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事 （変更箇所を赤字で表示） （変更していないものは「-」で表示）	報告書柱状図記事		記事を削除・変更・追記した理由	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 （コア観察カードからの変更点） （コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点）
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 （変更箇所を赤字で表示） （変更していないものは「-」で表示）		上端深度	下端深度		
		コア観察カードから正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>					
203	57.75	58.37	硬さBで堅硬である。割れ目そのものはわずかであるが、58.00~58.15mを中心に40~50°の低密着割れ目が多い。砂、粘土の挟在物はない。また、57.90~57.37mに80~90°割れ目が連続し、他割れ目との交差部の一部はφ3~5mmに細片化する。	57.75	58.37	硬さBで堅硬である。割れ目そのものはわずかであるが、58.00~58.15mを中心に40~50°の低密着割れ目が多い。砂、粘土の挟在物はない。また、57.90~58.37mに80~90°割れ目が連続し、他割れ目との交差部の一部はφ3~5mmに細片化する。	57.75	58.37	57.75~58.37m:割れ目は少ないが、主に58.00~58.15m間に傾斜40~50°の低密着割れ目が多い。砂、粘土の挟在物はない。57.90~58.37m間に傾斜80~90°の割れ目が連続し、他の割れ目との交差部の一部はφ3~5mmに細片化する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
204	58.37	58.85	岩片は硬さBで堅硬であるが、20~30°割れ目と80~90°割れ目が交差し、交差部の一部はごく薄く砂状化したり、φ5mm前後に細片化する。粘土ははさまない。	58.37	58.85	岩片は硬さBで堅硬であるが、20~30°割れ目と80~90°割れ目が交差し、交差部の一部はごく薄く砂状化したり、φ5mm前後に細片化する。粘土ははさまない。	58.37	58.85	58.37~58.85m:傾斜20~30°の割れ目と80~90°の割れ目が交差し、交差部の一部はごく薄く砂状化したり、φ5mm前後に細片化する。粘土ははさまない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
205	58.85	58.96	50°割れ目主体で、硬さCと上下よりやや軟化する。	58.85	58.96	50°割れ目主体で、硬さCと上下よりやや軟化する。	58.85	58.96	58.85~58.96m:傾斜50°の割れ目が主体である。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
206	58.55	58.55	50°割れ目は幅10mmがφ5mmのやや扁平化した細岩片と岩片間を埋める明緑灰色(7.5GY 8/1)の軟弱粘土からなる粘土混じり岩片状を呈する。	58.55	58.55	50°割れ目は幅10mmがφ5mmのやや扁平化した細岩片と岩片間を埋める明緑灰色(7.5GY 8/1)の軟弱粘土からなる粘土混じり岩片状を呈する。不連続である。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	58.55	58.55	58.85m:傾斜50°の割れ目は直線的でシャープに連続し、直には条線が見られる。割れ目沿いに径5mmのやや扁平化した細岩片と岩片間を埋める明緑灰色の軟弱粘土からなる粘土混じり岩片状が幅10mmで見られるが不連続で、周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	下記と同じ深度の記載をまとめ書きした
207	58.85	58.85	50°割れ目は直線的でシャープに連続し、せん断性割れ目の可能性もある。	58.85	58.85	50°割れ目は直線的でシャープに連続し、条線が見られるためせん断性割れ目とした。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	58.85	58.85	-	上記でまとめ書きしたため記載しない
208	58.96	59.47	硬さBと堅硬で50~70°割れ目が主体である。割れ目の挟在物はない。	-	-	-	58.96	59.47	58.96~59.47m:傾斜50~70°の割れ目が主体である。割れ目の挟在物はない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
209	59.16	59.16	45°割れ目の下盤傾斜約30mmは細粒花崗岩様を呈するが、Cpとの境界は漸移的。	59.16	59.16	45°割れ目の下盤傾斜約30mmは細粒花崗岩様を呈するが、Cpとの境界は漸移的。	59.16	59.16	59.16m:傾斜45°の割れ目の下盤傾斜約30mmは細粒花崗岩様を呈するが、花崗斑岩との境界は漸移的である。	-
210	59.07	59.58	30~50°の割れ目、低密着割れ目に幅1mmの軟弱な白色粘土脈を多くはさみ、全体が著しく軟化する。網目状に石英脈を挟む。	59.47	59.58	30~50°の割れ目、低密着割れ目に幅1mmの軟弱な白色粘土脈を多くはさみ、全体が著しく軟化する。網目状に石英脈を挟む。	59.47	60.06	59.47~60.06m:傾斜30~50°の割れ目、低密着割れ目に幅1mm前後の軟弱な白色粘土脈を多く挟む。網目状に石英脈を挟む。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない 記事内容がほぼ同じであるため、59.58~60.06mの記事を含めて記載した
211	59.47	59.71	(風化欄)βランク	59.47	59.71	(風化欄)γランク	59.47	59.71	(風化欄)γランク	-
212	59.58	60.06	幅1mm前後の軟弱な白色粘土脈が分布する。59.71mは硬さD、59.71m以下は硬さCの岩片からなり割れ目そのものは少ないが、細かい低密着割れ目が多い。	59.58	60.06	幅1mm前後の軟弱な白色粘土脈が分布する。59.71m以下は硬さD、59.71m以下は硬さCの岩片からなり割れ目そのものは少ないが、細かい低密着割れ目が多い。	-	-	-	上記でまとめ書きしたため記載しない

H24-D1-4 60.06~61.47m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	記事	上端深度		下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
213	60.06	60.38	破砕帯	60.06	60.38	破砕部	用語の統一(破砕帯→破砕部)			●60.06~60.38m:破砕部 60.06m:粘土状部(Hc-1) 傾斜45°で直線的にシヤープに連続する幅3mmの軟質~一部やや硬質な暗緑灰色粘土からなる。石英粒や岩片は含まない。 60.06~60.16m:粘土質硬状部(Hb) 上端45°で直線的にシヤープに連続。下端は不明瞭。径2~3mmの石英粒。径5~10mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。緑色を帯びた灰白色を呈する。幅約30~50mm。 60.16~60.38m:粘土混じり岩片状部(Hd) 上端不明瞭。下端60°で直線的にシヤープに連続。径10mm前後の粘土化~硬さDの花崗斑岩の岩片と岩片間に網状に分布する幅1~3mmの灰白色粘土脈からなる。明褐色~緑灰色を呈する。	●硬軟。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無。境界面や細粒部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
214	60.06	60.06	Hc-1(主せん断面)45°。幅3mmの軟質~一部半固結状の暗緑灰色(7.5GY 4/1)粘土。石英や岩片は含まない。直線的でシヤープに連続する。	60.06	60.06	Hc-1(最新活動面)(上端が最もシヤープ)45°。幅3mmの軟質~一部やや硬質な暗緑灰色(7.5GY 4/1)粘土。石英や岩片は含まない。直線的でシヤープに連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の直線性について追記した ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(軟質⇒軟質) ・表現の統一(半固結⇒やや硬質)				
215	60.06	60.16	Hb上端45°。下端不明瞭で、上端は直線的でシヤープに連続するが、下端は不明瞭である。径2~3mm石英粒。径5~10mmの粘土化したQpを多く含む硬質粘土でやや軟弱で緑色をおびた灰白色(5GY 8/1)を呈する。厚さ約30mm~50mm。	60.06	60.16	Hb上端45°。下端不明瞭で、上端は直線的でシヤープに連続するが、下端は不明瞭である。径2~3mm石英粒。径5~10mmの粘土化したQpを多く含む硬質粘土でやや軟弱で緑色をおびた灰白色(5GY 8/1)を呈する。厚さ約30mm~50mm。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・硬主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・粘土化が進み軟質であるため硬軟を変更した ・細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(軟弱⇒軟質、帯びる) ・表記の修正(「岩片」の記載漏れ)	60.06	60.38		
216	60.16	60.38	Hd上端不明瞭。下端60°で下端は直線的でシヤープに連続。径10mm前後の粘土化~硬さDのQp岩片と岩片間に網状に分布する幅1~3mmの灰白色粘土脈からなり、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR 7/2)~緑灰色(7.5GY 8/1)で、厚さは270mm(コア長)。	60.16	60.38	Hd上端不明瞭。下端60°で下端は直線的でシヤープに連続。径10mm前後の粘土化~硬さDのQp岩片と岩片間に網状に分布する幅1~3mmの灰白色粘土脈からなり、粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR 7/2)~緑灰色(7.5GY 8/1)で、厚さは270mm(コア長)。 やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・表記の修正(「色」の記載漏れ) ・厚さとしてコア長を記載したものは、真幅ではないため削除した ・硬軟。細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(混じり)				
217	60.38	60.74	硬さD岩片主体で、割れ目は消滅しかかっているが、かろうじて50~60°の割れ目の一部が残留している。割れ目や岩片間に幅1mm前後の軟質白色粘土脈が分布し、50°~60°~80°で石英、方解石の白色鉱物脈が幅2~5mmで分布する。	60.38	60.74	硬さD岩片主体で、割れ目は消滅しかかっているが、かろうじて50~60°の割れ目の一部が残留している。割れ目や岩片間に幅1mm前後の軟質白色粘土脈が分布し、50°~60°~80°で石英、方解石の白色鉱物脈が幅2~5mmで分布する。	・表現の統一(軟弱⇒軟質)	60.38	60.74	60.38~60.74m:割れ目は消滅しかかっているが、傾斜50~60°の割れ目の一部が残留する。割れ目や岩片間に幅1mm前後の軟質白色粘土脈が分布し、傾斜50~80°の石英、方解石の白色鉱物脈が幅2~5mmで分布する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
218	60.74	60.96	径5~20mmの硬さDのQp岩片と粘土化した基質からなる角礫構造である。	60.74	60.96	径5~20mmの硬さDのQp岩片と粘土化した基質からなる角礫状を呈する。原岩組織は認められる。	・原岩組織の有無について追記した ・表現の適正化(角礫構造という用語が一般的ではないため、角礫状に変更した)	60.74	60.96	60.74~60.96m:径5~20mmの硬さDの花崗斑岩の岩片と粘土化した基質からなる角礫状を呈するが、原岩組織は認められる。	
219	60.96	61.39	岩片自身は硬さBが主体であるが、低密着割れ目沿いに径10~20mm主体に細片化している。岩片に粘土が付着していることが多い。	60.96	61.39	岩片自身は硬さCが主体であるが、低密着割れ目沿いに径10~20mm主体に細片化している。岩片に粘土が付着していることが多い。	・表現の適正化(沿い) ・コアの硬さのランクと整合しないため変更した	60.96	61.39	60.96~61.39m:低密着割れ目沿いに主に径10~20mmに細片化する。岩片に粘土が付着していることが多い。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
220	60.96	61.21	(変質欄)2ランク	60.96	61.21	(変質欄)2ランク	・変質の程度がやや弱いため変質のランクを2ランクに変更した	60.96	61.21	(変質欄)2ランク	
221	61.25	61.28	15°方向に緑灰色化した岩片が分布。割れ目や表面に径0.5mm前後の金属鉱物(黄鉄鉱)が晶出。幅10mmの灰色の石英脈を伴う。	61.25	61.28	15°方向に緑灰色化した岩片が分布。割れ目や表面に径0.5mm前後の金属鉱物(黄鉄鉱)が晶出。幅10mmの灰色の石英脈を伴う。	・石英脈を伴うため追記した	61.25	61.28	61.25~61.28m:傾斜15°で緑灰色化した岩片が分布する。割れ目や岩片の表面に径0.5mm前後の黄鉄鉱が晶出する。幅10mmの灰色の石英脈を伴う。	
222	61.39	61.47	径5~20mmの硬さD岩片と粘土化した基質からなる。上端20°、下端5°の直線的でシヤープな割れ目に囲まれる。	61.39	61.47	変質部径5~20mmの硬さD岩片と粘土化した基質からなる。上端20°、下端5°の直線的でシヤープな割れ目に囲まれる。	・変質部であるため変質部と追記した	61.39	61.47	61.39~61.47m:変質部 上端20°、下端5°の直線的でシヤープな割れ目に囲まれ、径5~20mmの硬さDの岩片と粘土化した基質からなる。	

H24-D1-4 61.47~63.49m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事		記事		記事		記事			記事		記事			
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		
223	61.47	61.52	破砕帯	61.47	61.52	破砕部	・用語の統一(破砕帯→破砕部)	61.47~61.52m:破砕部 61.47~61.52m:粘土質凝状部(Hb) 上端5'、下端45'で両者とも直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒。径2~10mmの大半が粘土化したCa岩片を多く含む。軟質な暗緑色を帯びた灰白色(7.5GY 8/1)の硬質粘土で、厚さ50mm。	・硬質であるため破砕部内物質の名称を変更した ・粘土化が進んでいるため硬さを変更した ・表現の適正化(軟弱⇒軟質) ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した					
224	61.47	61.52	Hb 上端5'、下端45'で、両者とも直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒。径2~10mmの大半が粘土化したCa岩片を多く含む。軟質な暗緑色を帯びた灰白色(7.5GY 8/1)の硬質粘土で、厚さ50mm。	61.47	61.52	Hb 上端5'、下端45'で、両者とも直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒。径2~10mmの大半が粘土化したCa岩片を多く含む。軟質な暗緑色を帯びた灰白色(7.5GY 8/1)の粘土質硬質粘土で、厚さ50mm。含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。		61.47	61.52					
225	61.52	61.52	Hc-1(主せん断面) 45'、幅1mmの軟質な暗緑灰色(7.5GY 4/1)粘土で直線的でシャープに連続する。	61.52	61.52	Hc-1(最新活動面) 45'、幅1mmの軟質な暗緑灰色(7.5GY 4/1)粘土で直線的でシャープに連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	・最新活動面という用語に統一 ・表現の適正化(軟弱⇒軟質) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した							
226	61.52	62.42	20~60°とこれに斜交~直交する50~60°の割れ目からなる。このうち、20~30°の割れ目は直線的でシャープに連続することが多い。割れ目は薄く砂状化したり、幅1mm前後の軟質な暗緑灰~灰白色の粘土質ないし粘土質を挟むことが多い。	61.52	62.42	20~60°とこれに斜交~直交する50~60°の割れ目が分布する。このうち、20~30°の割れ目は直線的でシャープに連続することが多い。割れ目は薄く砂状化したり、幅1mm前後の軟質な暗緑灰~灰白色の粘土質ないし粘土質を挟むことが多い。	・表現の適正化(軟弱⇒軟質、挟む) ・文章の適正化(割れ目からなる⇒割れ目が分布)	61.52~62.42m:傾斜20~60°とこれに斜交~直交する50~60°の割れ目が分布し、このうち、傾斜20~30°の割れ目は直線的でシャープに連続することが多い。割れ目は薄く砂状化したり、幅1mm前後の軟質な暗緑灰~灰白色の粘土質を挟むことが多い。						
227	62.38	62.38	30°はせん断性割れ目で、交差する60°の割れ目を切っている(実位置7mm右ズレ)。	62.38	62.38	30°のせん断性割れ目は、交差する60°の割れ目を止めている。切っている(実位置7mm右ズレ)。割れ目には挟作物が認められ、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・実位置基準とした60°の割れ目は姿勢が異なり、一連のものではないため「切っている」を「止めている」に変更し、実位置の記載を削除した。 ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	62.38m:傾斜30°の割れ目は、交差する60°の割れ目を止めている。割れ目には挟作物が認められ、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。						
228	62.42	62.49	上端25'、下端20°の割れ目に囲まれφ5mm前後の硬さDの岩片と粘土化著しい基質からなる。	-	-	-		62.42~62.49m:上端25'、下端20°の割れ目に囲まれ、径5mm前後の硬さ「D」の岩片と粘土化著しい基質からなる。						
229	62.49	62.74	実質で著しく軟化するが、割れ目の一部が残留する。割れ目は10~40°が主体で、幅0.5~1mmの暗緑灰色(7.5GY 4/1)、灰赤色(2.5YR 6/2)を挟む。	62.49	62.74	実質で著しく軟化するが、割れ目の一部が残留する。割れ目は10~40°が主体で、幅0.5~1mmの暗緑灰色(7.5GY 4/1)、灰赤色(2.5YR 6/2)の粘土質を挟む。	・挟作物の種類を追記した ・表現の適正化(軟質化、挟む)	62.49~62.74m:実質で著しく軟化するが、割れ目の一部が残留する。割れ目は傾斜10~40°が主体で、幅0.5~1mmの暗緑灰色、灰赤色の粘土質を挟む。						
230	62.67	62.67	40°は幅0.5mm灰赤色の軟質粘土を挟み、その下盤傾斜3~12mmにφ5mm前後の白色硬と軟質な白色粘土層を伴う。	62.67	62.67	40°の割れ目は幅0.5mm灰赤色の軟質粘土を挟み、その下盤傾斜3~12mmにφ5mm前後の白色硬と軟質な白色粘土層を伴う。	・40°の割れ目であることを追記した ・表現の適正化(軟弱⇒軟質、挟む) ・下盤傾斜が必ずしも下盤とは限らないため下盤に変更した。	62.67m:傾斜40°で幅0.5mmの軟質な灰赤色粘土を挟み、その下盤傾斜3~12mmにφ5mm前後の白色硬と軟質な白色粘土層を伴う。						
231	62.74	63.29	割れ目は消滅しかかるが、70°前後と40°前後の割れ目、低密着割れ目が残留する。粘土層は挟まないが、岩片間に淡緑灰~白色粘土フィルムが付着することが多い。	62.74	63.29	割れ目は消滅しかかるが、70°前後と40°前後の割れ目、低密着割れ目が残留する。粘土層は挟まないが、岩片間に淡緑灰~白色粘土フィルムが付着することが多い。	・表現の適正化(挟む)	62.74~63.29m:割れ目は消滅しかかるが、傾斜70°前後と40°前後の割れ目、低密着割れ目が残留する。粘土層は挟まないが、岩片間にフィルム状の淡緑灰~白色粘土が付着することが多い。						
232	-	-	-	63.03	63.04	傾斜40°、幅8mm、灰色を呈する石英脈を挟む。	・石英脈は周囲と異なる状況であるため追記した	63.03~63.04m:傾斜40°で幅8mmの灰色の石英脈を挟む。						
233	-	-	-	63.21	63.21	傾斜45°、幅1~3mmの灰色粘土層を挟む。	・灰色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した	63.21m:傾斜45°で幅1~3mmの灰色粘土層を挟む。						
234	63.29	63.67	上位よりも著しく軟化する。63.38m~30°、63.49m~55°の2箇所は割れ目が分布する以外は消滅し、φ10mm前後の岩片間に幅1~2mmの軟質な白色粘土層が網状に分布する。	63.29	63.67	上位よりも著しく軟化する。63.38m~30°、63.49m~55°の2箇所は割れ目が分布する以外は消滅し、φ10mm前後の岩片間に幅1~2mmの軟質な白色粘土層が網状に分布する。	・表現の適正化(軟質化、箇所、軟弱⇒軟質)	63.29~63.67m:上位よりも著しく軟質化し、径10mm前後の岩片間に幅1~2mmの軟質な白色粘土が網目状に分布する。						
235	63.49	63.49	55°はせん断性割れ目で多数の幅1~2mmの軟質な白色粘土層が切れ切れている(実位置不明)	63.49	63.49	55°のせん断性割れ目で多数の幅1~2mmの軟質な白色粘土層が止まっている。切れ切れている実位置不明。割れ目には幅0~1mmの暗緑灰色粘土を伴う。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・55°の割れ目は熱水実質部を挟むもので、周辺にも同様な割れ目は多数見られる。 ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「切れ切れている」を「止めている」に変更し、実位置についての記載を削除した。また、「せん断性」を削除した ・表現の適正化(軟弱⇒軟質)	63.49m:傾斜55°の割れ目で多数の幅1~2mmの軟質な白色粘土層が止まっている。割れ目には幅0~1mmの暗緑灰色粘土を伴う。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。						

H24-D1-4 63.67~66.50m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	報告書柱状図記事			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	記事		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	記事	記事を削除・変更・追記した理由	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	記事	記事を削除・変更・追記した理由	
236	63.67	63.90	破砕帯	63.67	63.90	破砕部	-用語の統一(破砕帯→破砕部)				
237	63.67	63.83	H 上端45°、下端60°で、両者とも一部不明瞭で連続する。φ5~20mmの尖角が粘土化したQc岩片と岩片間を幅1~2mmの軟質な白色粘土層が網状に分布する。また、63.72mに45°、幅2~3mmの軟質な灰赤色(2.5YR 6/2)が直線的でシャープに連続している。全体的には粘土混じり岩片状で、淡い緑色を帯びた灰白色(7.5Y 8/1)で厚さ150mm(コア長)	63.67	63.83	H 上端45°、下端60°で、両者とも一部不明瞭で連続する。φ5~20mmの尖角が粘土化したQc岩片と岩片間を幅1~2mmの軟質な白色粘土層が網状に分布する。また、63.72mに45°、幅2~3mmの軟質な灰赤色(2.5YR 6/2)粘土を挟む。粘土の境界は漸移的で直線的に乏しい。全体的には粘土混じり岩片状で、淡い緑色を帯びた灰白色(7.5Y 8/1)で厚さ460mm(コア長)。 軟質、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	-63.72mの灰赤色が粘土であることと追記し、粘土の境界は漸移的で直線的に見られるため変更した。 -表現の適正化(軟質⇒軟質、扁平状⇒レンズ状) -粘土化が強い岩片を多く含むため硬さを追記した。 -注釈としてコア長を記載したものは、真幅ではないため削除した。 -注釈、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。	63.67	63.90	●63.67~63.90m:破砕部 63.67~63.83m:粘土混じり岩片状部(H) 上端45°、下端60°でとも一部不明瞭で連続。径5~20mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片と岩片間を幅1~2mmの軟質な白色粘土層が網状に分布する。また、63.72mに傾斜45°で幅2~3mmの軟質な灰赤色粘土を挟む。粘土の境界は漸移的で直線的に乏しい。全体は淡い緑色を帯びた灰白色を呈する。 63.83~63.88m:粘土質軟状部(H) 上端60°で不明瞭。下端70°で直線的にシャープに連続。径5~10mmの一部粘土土。一部硬さEの岩片を多く含む。基質中に幅2~3mmの赤灰色の軟質粘土を脈状に含む。幅20~30mm。 63.88~63.90m:粘土状部(Hc-1) 傾斜70°で直線的にシャープに連続する幅5~10mmの硬質な赤灰色粘土からなる。径1mm前後の石英粒をわずかに含む。	-硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
238	63.83	63.88	Hb 上端60°、下端70°で上端は不明瞭。下端は直線的でシャープに連続。φ5~10mmの一部粘土土。一部硬さEの岩片を多く含む硬質粘土で基質中に幅2~3mmの赤灰色の軟質粘土を脈状に含む。全体にやみ軟弱な灰白(7.5Y 8/1)~赤灰(2.5YR 6/1)、厚さ20~30mm。	63.83	63.88	Hb 上端60°、下端70°で上端は不明瞭。下端は直線的でシャープに連続。φ5~10mmの一部粘土土。一部硬さEの岩片を多く含む粘土質硬状部で基質中に幅2~3mmの赤灰色の軟質粘土を脈状に含む。全体にやみ軟弱な灰白(7.5Y 8/1)~赤灰色(2.5YR 6/1)、厚さ20~30mm。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	-硬主体であるため破砕部内物質の名称を変更した。 -表現の適正化(軟質⇒軟質、扁平状⇒レンズ状) -粘土化が強い岩片を多く含むため硬さを追記した。 -網目の修正(灰色)の記載消す。 -網目の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。	63.67	63.90		
239	63.88	63.90	Hc-1(主せん断面+63.88m) 70° 幅5~10mmで直線的でシャープに連続するやみ半固結状の赤灰色(2.5YR 6/1)の粘土。若干のφ1mm前後の石英粒を含む。	63.88	63.90	Hc-1(最新活動面+63.90m)(下端が最もシャープ) 70° 幅5~10mmで直線的でシャープに連続する硬質の赤灰色(2.5YR 6/1)の粘土。若干のφ1mm前後の石英粒を含む。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	-最新活動面という用語に統一 -最新活動面の直線性について追記した。 -下端が最も直線的であるため最新活動面を下端境界に変更した。 -周囲よりコアの表面が滑らかで突出しているため設置に変更した。 -原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。	63.88	63.90		
240	63.90	64.05	硬さDのφ5~20mmQc岩片と粘土化で著しく軟化した基質からなる。64.05mで70°の直線的でシャープな割れ目と接する。	63.90	64.05	硬さDのφ5~20mmQc岩片と粘土化で著しく軟化した基質からなる。64.05mの70°の直線的でシャープな割れ目と下位と接される。	-表現の適正化(軟質化) -文章の適正化(割れ目と接する⇒割れ目で境される)	63.90	64.05	63.90~64.05m:硬さ[D]の径5~20mmの花崗斑岩の岩片と粘土化で著しく軟化した基質からなる。64.05mの傾斜70°の直線的でシャープな割れ目と下位と境される。	
241	64.05	64.57	(割れ目状態)Cランク (コアの形状)Cランク (コアの硬さ)Cランク	64.05	64.57	(割れ目状態)Cランク (コアの形状)Cランク (コアの硬さ)Cランク	-コアに合わせて割れ目状態、コアの形状、コアの硬さのランクを変更した	64.05	64.57	(割れ目状態)Cランク (コアの形状)Cランク (コアの硬さ)Cランク	
242	64.05	65.93	(岩級区分)CL	64.05	65.93	(岩級区分)CM	-割れ目状態、コアの形状、コアの硬さのランクの変更に伴い、岩級を変更した	64.05	65.93	(岩級区分)CM	
243	64.05	64.57	一部に硬さBを混入する硬さCの岩片主体。互いに交差する70°前後の割れ目。低密着割れ目が主体で、交差部の一部でφ10~20mmの岩片に細片化している。割れ目には挟持物は分布しない。	64.05	64.57	一部に硬さBを混入する硬さCの岩片主体。互いに交差する70°前後の割れ目。低密着割れ目が主体で、交差部の一部でφ10~20mmの岩片に細片化している。割れ目には挟持物は分布しない。	-表現の適正化(同角⇒同角度)	64.05	64.57	64.05~64.57m:一部に硬さ[C]を含むが、硬さ[B]の岩片が主体である。互いに交差する傾斜70°前後の割れ目。低密着割れ目が主体で、交差部の一部で径10~20mmの岩片に細片化する。割れ目に挟持物は分布しない。	
244	64.57	65.06	硬さBと硬度で10~30°割れ目主体。同角の低密着割れ目も分布する。	64.57	65.06	硬さBと硬度で10~30°割れ目主体。同角の低密着割れ目も分布する。	-表現の適正化(挟む)	64.57	65.06	64.57~65.06m:傾斜10~30°の割れ目が主体で、同傾斜の低密着割れ目も分布する。	-記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
245	64.83	64.83	60°割れ目に連続した幅1mmの緑灰色(7.5GY 6/1)粘土脈を挟む。	64.83	64.83	60°割れ目に硬質な幅1mmの緑灰色(7.5GY 6/1)粘土脈を挟む。	-表現の統一(固結⇒硬質)	64.83	64.83	64.83m:傾斜60°で幅1mmの硬質な緑灰色粘土脈を挟む。	
246	65.00	70.00	(地質名欄)記載なし	65.00	70.00	(地質名欄)Qc	-地質名欄の記載が漏れていたため追記した	65.00	70.00	(地質名欄)花崗斑岩	
247	65.06	66.65	30~60°とこれらに斜交~直交する40~80°割れ目が主体で、割れ目は直線的にシャープではなく波打ちながら不規則に連続するものが多い。砂状部や粘土部などは挟まれないが、割れ目自体にφ5mm前後の細片化することがある。	65.06	66.65	30~60°とこれらに斜交~直交する40~80°割れ目が主体で、割れ目は直線的にシャープではなく波打ちながら不規則に連続するものが多い。砂状部や粘土部などは挟まれないが、割れ目自体にφ5mm前後の細片化することがある。	-表現の適正化(挟む、沿い) -網目の修正(前後の⇒前後に)	65.06	66.65	65.06~66.65m:傾斜30~60°とこれらに斜交~直交する40~80°の割れ目が主体で、割れ目は直線的にシャープではなく波打ちながら不規則に連続するものが多い。砂状部や粘土部などは挟まれないが、割れ目自体に径5mm前後に細片化することがある。	
248	65.06	66.65	(割れ目状態)Cランク	65.06	66.65	(割れ目状態)Bランク	-挟持物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをBランクに変更した	65.06	66.65	(割れ目状態)Bランク	
249	65.06	65.93	(コアの形状)Cランク	65.06	65.93	(コアの形状)Bランク	-上位と同程度の割れ目傾度であるためコアの形状のランクをBランクに変更した	65.06	65.93	(コアの形状)Bランク	
250	65.06	66.50	(コアの硬さ)Cランク	65.06	66.50	(コアの硬さ)Bランク	-コアは硬質なためコアの硬さのランクをBランクに変更した	65.06	66.50	(コアの硬さ)Bランク	

H24-D1-4 65.09~69.75m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	報告書柱状図記事			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事		上端深度	下端深度	記事	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事を削除・変更・追記した理由			選定した記事内容	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点)
251	65.09	65.31	65.09m・50°、65.31m・60°の各割れ目目洗い、各々5~20mm、5mmが緑灰色化し、φ0.5mm以下の微小な金属鉱物(黄鉄鉱)が少量晶出している。	65.09	65.31	65.09m・50°、65.31m・60°の各割れ目目洗い、各々5~20mm、5mmが緑灰色化し、φ0.5mm以下の微小な金属鉱物(黄鉄鉱)が少量晶出している。	65.09	65.31	65.09m・50°、65.31m・60°の各割れ目目洗い、各々幅5~20mm、幅5mmが緑灰色化し、径0.5mm以下の微小な黄鉄鉱が少量晶出する。	
252	66.50	66.65	55~60°の割れ目がほぼ平行に5~20mm間隔で分布する。粘土は含まない。	66.50	66.65	55~60°の割れ目がほぼ平行に5~20mm間隔で分布する。粘土は含まない。	66.50	66.65	66.50~66.65m・傾斜55~60°の割れ目がほぼ平行に5~20mm間隔で分布する。粘土は含まない。	
253	66.50	66.65	(コアの硬さ欄)Dランク	66.50	66.65	(コアの硬さ欄)Cランク	66.50	66.65	(コアの硬さ欄)Cランク	
254	66.64	66.64	65° 割れ目目洗い幅5mmが淡緑灰色(緑泥石化)し、幅0.5mmの黄鉄鉱晶を伴う。	66.64	66.64	65° 割れ目目洗い幅5mmが淡緑灰色(緑泥石化)し、幅0.5mmの黄鉄鉱晶を伴う。	66.64	66.64	66.64m・傾斜65°の割れ目目洗い幅5mmで緑泥石化により淡緑灰色化し、幅0.5mmの黄鉄鉱晶を伴う。	
255	66.65	67.05	主として変質で著しく軟化する。上端は65° 割れ目で直線的でシャープに接するが、下端は漸移的である。φ5~20mmの硬砂主体の一部粘土化した岩片と粘土化した基質からなる角礫構造部で、基質中には時々幅1~2mmの軟弱な粘土~粘土層が分布する。	66.65	66.85	変質部 主として変質で著しく軟化する。上端は65° 割れ目で直線的でシャープに接するが、下端は漸移的である。φ5~20mmの硬砂主体の一部粘土化した岩片と粘土化した基質からなる角礫構造部で、基質中には時々幅1~2mmの軟弱な粘土~粘土層が分布する。	66.65	66.85	66.65~66.85m:変質部 主として変質により著しく軟化する。上端は傾斜65°の割れ目で直線的でシャープに上位の岩盤と接するが、下端は漸移的である。径5~20mmの硬砂「D」~粘土化した岩片と粘土化した基質からなる。基質中には時々幅1~2mmの軟弱な粘土層が分布する。	
256	66.85	67.05	(割れ目状態欄)Dランク (コアの形状欄)V1ランク (コアの硬さ欄)Dランク	66.85	67.05	(割れ目状態欄)Cランク (コアの形状欄)V2ランク (コアの硬さ欄)Dランク	66.85	67.05	(割れ目状態欄)Cランク (コアの形状欄)V2ランク (コアの硬さ欄)Dランク	
257	67.05	67.88	割れ目は一部が消滅、一部は60~70°主体に残留する。また、同角の低密着割れ目も多く分布。割れ目の一部に幅1~3mmの軟弱な白色~暗緑灰色の粘土~粘土層が分布する。	66.85	67.88	割れ目は一部が消滅、一部は60~70°主体に残留する。また、同角の低密着割れ目も多く分布。割れ目の一部に幅1~3mmの軟弱な白色~暗緑灰色の粘土~粘土層が分布する。	66.85	67.88	66.85~67.88m:割れ目は一部が消滅、一部は傾斜60~70°が主体で残留する。同傾斜の低密着割れ目も多く分布する。割れ目の一部に幅1~3mmの軟弱な白色~暗緑灰色の粘土層が分布する。	
258	67.51	67.88	(コアの硬さ欄)Dランク	67.51	67.88	(コアの硬さ欄)Cランク	67.51	67.88	(コアの硬さ欄)Cランク	
259	67.88	67.88	65°はせん断性割れ目で、交差する60~70°の低密着割れ目多数を切っている(変質量不明)。	67.88	67.88	65°のせん断性割れ目は、交差する60~70°の低密着割れ目を多数止めているように見える。65°でない(変質量不明)。割れ目には挟在物が認められるが、割れ目の凹凸が著しい。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	67.88	67.88	67.88m:傾斜65°の割れ目は、交差する60~70°の低密着割れ目を多数止めているように見える。割れ目には挟在物が認められるが、割れ目の凹凸が著しい。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
260	67.88	67.98	上端65°、下端55°の割れ目で囲まれ、変質と風化で著しく軟化する。せん断面は分布しない。	67.88	67.98	上端65°、下端55°の割れ目で囲まれ、変質と風化で著しく軟化する。せん断面は分布しない。	67.88	67.98	67.88~67.98m:上端65°、下端55°の割れ目で囲まれ、変質と風化で著しく軟化する。せん断面は分布しない。	
261	67.98	70.00	硬砂D主体で、一部に硬砂Cが分布。割れ目の一部は砂状化~粗片化(φ5mm前後)。全体に粘土化は殆んどないが、69.80m以深には、幅1mm以下の軟弱な白色粘土~粘土層が少量分布する。割れ目、低密着割れ目は50~70°が主体である。しばしば、幅1~3mmの軟弱な暗緑灰色粘土を40~70°ではさむ。	67.98	70.00	硬砂D主体で、一部に硬砂Cが分布。割れ目の一部は砂状化~粗片化(φ5mm前後)。全体に粘土化は殆んどないが、69.80m以深には、幅1mm以下の軟弱な白色粘土~粘土層が少量分布する。割れ目、低密着割れ目は50~70°が主体である。68.32m、68.57m、68.84mに幅1~3mmの軟弱な暗緑灰色粘土を40~70°で挟む。	67.98	70.00	67.98~70.00m:傾斜50~70°の割れ目、低密着割れ目が主体で、割れ目の一部は砂状化~粗片化(φ5mm前後)に粗片化するが、全体に粘土化は殆んどしていない。69.80m以深には、幅1mm以下の軟弱な白色粘土層が少量分布する。また、68.32m、68.57m、68.84mには傾斜40~70°で幅1~3mmの軟弱な暗緑灰色粘土を挟む。	
262	68.43	68.69	(コアの硬さ欄)Dランク	68.43	68.69	(コアの硬さ欄)Cランク	68.43	68.69	(コアの硬さ欄)Cランク	
263	69.52	69.75	69.52m・70°、69.75m・70°はともにせん断性割れ目で、交差する多数の割れ目を切っている(変質量不明)。	69.52	69.75	69.52m・70°、69.75m・70°のほどもせん断性割れ目は、交差する多数の割れ目を止めている。69°である(変質量不明)。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	69.52	69.75	69.52m・70°、69.75m・70°の割れ目は、交差する多数の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	

余白

H27-B-3

H27-B-3 0.00~10.05m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を考慮して表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
1	-	-	0.00	10.05	盛土	・表視の統一(盛土) ・人工堆積物の区間を追記した	0.00	10.05	0.00~10.05m: 盛土	-
2	0.00	1.70	0.00	1.70	埋戻土 ボーリング掘削に先立ち、地下埋設物確認のため 手掘りの試験を行った際の試料。い-その埋戻土。	・表視の統一(0.00) ・人工堆積物の地質名の記載を削除した	-	-	-	・人工堆積物を盛土で一括したため試験試料区間を区分しない
3	0.00	0.35	0.00	0.35	砂 径2~3cm程度の黒色砂岩の角礫からなる。	・表視の統一(0.00) ・砂石を地質名に変更した ・粒径、礫の形状、量種名を追記した	0.00	0.35	0.00~0.35m: 礫 径2~3cm程度の黒色砂岩の角礫からなる。	-
4	0.35	1.70	0.35	1.70	標準じり砂~雑質砂	・表視の適正化(混じり) ・構成物を追記した	0.35	1.70	0.35~1.70m: 標準じり砂~雑質砂 径2~20mm程度の花崗岩類、黒色砂岩の角~歪 角礫を30%以下で含む粗粒砂からなる。ルーズ。	-
5	1.70	10.05	1.70	10.05	盛土 構造物基礎の盛土部 よく締った標準じり粗砂~粗砂~砂礫からなる。	・盛土の記載は、0.00~10.05mの記事にまとめて示したため削除した ・構成物基礎の盛土部は、コア観察だけでは判断できないため削 除した	1.70	10.05	1.70~10.05m: よく締った標準じり粗砂~粗砂~砂礫からなる。	-
6	1.70	5.27	-	-	砂	-	1.70	5.27	1.70~5.27m: 砂	-
7	2.40	2.80	2.40	2.80	2.4~2.8m間の水平性割れ目は掘削後の乾燥による 収縮クラック。	・表視の統一(深度の表示)	-	-	-	・原位置のコアの状況ではないため削除した
8	3.50	-	-	-	3.50m以深では粗粒砂が主体となる。	-	3.50	-	3.50m以深は粗粒砂が主体となる。	-
9	3.61	3.67	-	-	マンガンで表面が黒色化した石英粒が濃集してい る。	-	3.61	3.67	3.61~3.67m: マンガンで表面が黒色化した石英粒が濃集して、いる。	-
10	5.27	5.60	5.27	5.60	砂礫 径2~80mm程度の花崗岩類、砂岩の歪角礫を含む 粗粒砂からなる。	・構成物を追記した	5.27	10.05	5.27~10.05m: 砂礫 径2~170mm程度の花崗岩類、砂岩の角~歪角礫を含む 粗粒砂からなる。	・盛土のうち、砂礫の区間をまとめて書き上げた
11	5.60	7.07	5.60	7.07	砂 中粒砂主体で塊状。 ラミナなどの塊積構造は分布しない。 φ2~3mm石英粒を少量(5%未満)含む。	・表視の適正化(m/m ³ mm)	5.60	7.07	5.60~7.07m: 砂を挟む、中粒砂主体で塊状。ラミナなどの塊積構造は分 布しない。径2~3mmの石英粒を少量(5%未満)含む。	-
12	6.50	-	6.50	-	6.50m以深では締る。	・表視の統一(深度の表示)	6.50	-	6.50m以深は締まりが良い。	-
13	7.07	8.01	7.07	8.01	砂礫 径2~170mm程度の花崗岩類の角~歪角礫を含む 粗粒砂からなる。	・構成物を追記した	-	-	-	・上記で砂礫の区間の記載をまとめて書き上げたため削除した
14	8.01	8.37	-	-	砂	-	8.01	8.37	8.01~8.37m: 砂を挟む。	-
15	8.37	10.05	8.37	10.05	砂礫 径2~80mm程度の花崗岩類、砂岩の歪角礫を含む 粗粒砂からなる。	・構成物を追記した	-	-	-	・上記で砂礫の区間の記載をまとめて書き上げたため削除した
16	9.21	9.66	-	-	腐食した鉄棒を含むモルタル(一部にCaOH骨材少量 含む)	-	9.21	9.66	9.21~9.66m: 腐食した鉄棒を含むモルタル(一部に花崗斑岩骨材少量 含む)。	-
17	9.80	10.03	9.80	9.80	9.80mと10.03m付近モルタル含む	・10.03mはモルタルではなくスライムのシートであるため削除した	9.80	9.80	9.80m付近にモルタルを含む。	-
18	-	-	-	-	(着岩)	-	-	-	-	・下記に花崗斑岩の区間を示しているため着岩の記載は削除した
19	-	-	10.05	180.00	花崗斑岩 φ1~3mm石英、長石を斑晶とする花崗斑岩(Co) 長石は白濁化することが多い。	・地質名及び識別深度を追記した ・表視の適正化(mm)	10.05	180.00	10.05~180.00m: 花崗斑岩 径1~3mmの石英、長石を斑晶とする花崗斑岩。長石は白濁化することが 多い。	-

H27-B-3 10.05~15.80m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を考慮して表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
20	10.05	12.96	CL 硬さ「C」主体で上端側の10.05~11.20mと中央部の11.82~12.00mは風化が進んだ硬さ「D」である。 硬さ「C」区間の一部で割れ目に挟み物を含まない部分があるが多くは風化により砂や実質粘土を脈状に挟んでいる。 長石は多くが白濁化している。					10.05~12.96m:CL 硬さ「C」主体で上端側の10.05~11.20mと中央部の11.82~12.00mは風化が進んだ硬さ「D」である。 硬さ「C」区間の一部で割れ目に挟み物を含まない部分があるが多くは風化により砂や実質粘土を脈状に挟む。長石の多くは白濁化している。		
21	10.70	10.80	硬さ「C」の硬質薄片が残留する。					10.70~10.80m:硬さ「C」の硬質薄片が残留する。		
22	11.20	11.82	硬さ「C」主体で挟み物も少ない。 一部で密着度の低い割れ目を含んでいる。					11.20~11.82m:硬さ「C」主体で挟み物も少ない。一部で密着度の低い割れ目を含む。		
23	11.40	11.55	割れ目が交差し岩片化するが劣化は伴わない。	11.40	11.55	割れ目が交差し岩片化するが劣化は伴わない。		11.40~11.55m:割れ目が交差し岩片化するが、劣化は伴わない。		
24	11.82	12.00	上下位よりも軟化する。 下端部の11.97~12.00mは粘土化が進んでいる。	11.82	12.00	上下位よりも軟化する。 下端部の11.97~12.00mは粘土化が進んでいる。		11.82~12.00m:上下位よりも軟化する。11.97~12.00mは粘土化が進む。		
25	12.00	12.96	硬さ「C」主体であるが、割れ目厚さ1mm程度と薄く砂状化することが多い。 また、各割れ目は程度にマンガン鉱染を受け、面の一部は黒褐色化する。	12.00	12.96	硬さ「C」主体であるが、割れ目厚さ1mm程度と薄く砂状化することが多い。 また、各割れ目は程度にマンガン鉱染を受け、面の一部は黒褐色化する。		12.00~12.96m:硬さ「C」主体であるが、割れ目厚さ1mm程度で薄く砂状化することが多い。また、各割れ目は薄くマンガン鉱染を受け、面の一部は黒褐色化する。		
26	12.96	14.62	D、CL 上端側と下端側はD級、中央部はCL級が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」であるが岩組織や割れ目は残留しているが全体に疎な砂状化が進み、時々灰白色の粘土を5mm前後の斑点状~幅1~3mmの脈状に含んでいる。	12.96	14.62	D、CL 上端側と下端側はD級、中央部はCL級が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」であるが岩組織や割れ目は残留しているが全体に疎な砂状化が進み、時々灰白色の粘土を5mm前後の斑点状~幅1~3mmの脈状に含んでいる。		12.96~14.62m:D、CL 上端側と下端側よりD級、中央部はCL級が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」であるが岩組織や割れ目は残留しているが、全体に疎な砂状化が進み、時々、灰白色の粘土を5mm前後の斑点状~幅1~3mmの脈状に含む。		
27	13.64	14.30	硬さ「C」岩片主体で20~40°の密着度の低い割れ目が同方向に1~2cm間隔で分布。					13.64~14.30m:硬さ「C」の岩片主体で20~40°の密着度の低い割れ目が同方向に1~2cm間隔で分布する。		
28	13.64	14.30	(コアの硬さ種)Dランク	13.64	14.30	(コアの硬さ種)Dランク		(コアの硬さ種)Dランク		
29	14.22	14.22	43°幅1mm軟質黄褐色粘土を挟む割れ目(s) 交差する80°幅1mm石英脈を切っている(変位量7m/m、右式)	14.22	14.22	43°幅1mm軟質黄褐色粘土を挟む割れ目(s) 交差する80°幅1mm石英脈を止めている。切っ止まっている(s)及び変位量についての記載を削除した。 割れ目周辺の状態について追記した。 -表視の適正化(挟む、mm)		14.22m:43°で幅1mmの軟質黄褐色粘土を挟む割れ目は、交差する80°で幅1mmの石英脈を止めている。割れ目周辺の状態に原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。		
30	14.30	14.62	上端17°幅1~5mm軟質赤灰色粘土。 下端30°割れ目で囲まれ著しく軟化しているが、一部に硬さ「D」も残留。 岩組織や割れ目はわずかに残留している。 時々幅1~2mmの軟質灰白色粘土を脈状に含んでいる。	14.30	14.62	上端17°幅1~5mm軟質赤灰色粘土。 下端30°割れ目で囲まれ著しく軟化しているが、一部に硬さ「D」も残留。 岩組織や割れ目はわずかに残留している。 時々幅1~2mmの軟質灰白色粘土を脈状に含んでいる。		14.30~14.62m:上端17°で幅1~5mmの軟質赤灰色粘土を挟む割れ目、下端30°の割れ目で囲まれ著しく軟化しているが、一部に硬さ「D」も残留する。原岩組織や割れ目はわずかに残留する。時々幅1~2mmの軟質灰白色粘土を脈状に含む。		
31	14.30	14.62	(岩級区分)D	14.30	14.62	(岩級区分)CL		(岩級区分)CLに含める		
32	14.62	20.04	CL 20~40°割れ目主体で、割れ目沿いに風化が砂状化が拡大している部分も含んでいる。	14.62	20.04	CL 20~40°割れ目主体で、割れ目沿いに風化が砂状化が拡大している部分も含んでいる。		14.62~20.04m:CL 20~40°の割れ目主体で、割れ目沿いに風化が砂状化が拡大する部分も含む。		
33	-	16.49	上端側の16.49m以浅は硬さ「D」主体、16.49m以深は硬さ「C」主体である。					16.49m以浅は硬さ「D」主体、16.49m以深は硬さ「C」主体である。		
34	15.33	15.43	風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟化著しい。上下端とも35°前後の割れ目である。	15.33	15.43	風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟化著しい。上下端とも35°前後の割れ目である。		15.33~15.43m:風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟化著しい。上下端とも35°前後の割れ目である。		
35	15.73	15.80	80°割れ目より薄くマンガン鉱染を受ける。	15.73	15.80	80°割れ目より薄くマンガン鉱染を受ける。		15.73~15.80m:80°の割れ目沿いに薄くマンガン鉱染を受ける。		

H27-B-3 16.31~22.45m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
36	16.31	16.31	50° 割れ目ぞい幅5~15mm/半円結状白色シルト~粘土はさむ。	50° 割れ目ぞい幅5~15mmやや硬質な白色シルト~粘土はさむ。	・表現の適正化(括弧、扱い、mm) ・表現の統一(半円結状⇒やや硬質な)	16.31	16.31	16.31m:50° の割れ目ぞいに幅5~15mmでやや硬質な白色シルト~粘土を挟む。
37	16.49	16.49	35° 割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目を含んでいる。	-		-	-	16.49m:35° の割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目を含む。
38	16.76	16.87	φ10~20mm/mの岩片状量する。岩片間は幅1~2mm/程度砂状化。	φ10~20mmの岩片状量する。岩片間は幅1~2mm程度砂状化。	・表現の適正化(mm)	16.76	16.87	16.76~16.87m:φ10~20mmの岩片状量する。岩片間は幅1~2mm程度で砂状化する。
39	17.13	17.31	割れ目の一部に幅1~2mm/mの軟質灰白色粘土をはさむ。	割れ目の一部に幅1~2mmの軟質灰白色粘土を挟む。	・表現の適正化(括弧、mm)	17.13	17.31	17.13~17.31m:割れ目の一部に幅1~2mmの軟質灰白色粘土を挟む。
40	17.40	19.00	密着度の低い風化割れ目を含む。ハンマーの打撃でこれら割れ目ぞいの一部は分離、細片化する。既に割れ目化し、開口しているものも多い。	密着度の低い風化割れ目を含む。ハンマーの打撃でこれら割れ目ぞいの一部は分離、細片化する。既に割れ目化し、開口しているものも多い。	・表現の適正化(扱い)	17.40	19.00	17.40~19.00m:密着度の低い風化割れ目を含む。ハンマーの打撃で割れ目の一部は分離、細片化する。割れ目化し、開口しているものも多い。
41	17.85	18.00	割れ目が交差。一部φ20~30mm/mに岩片化。粘土や砂は挟まない。	割れ目が交差。一部φ20~30mmに岩片化。粘土や砂は挟まない。	・表現の適正化(括弧、mm)	17.85	18.00	17.85~18.00m:割れ目が交差。一部で径20~30mmに岩片化する。粘土や砂は挟まない。
42	18.05	18.47	珪化物質により石英量多く硬化している。	-		-	-	18.05~18.47m:珪化物質により石英量が多く硬化する。
43	18.43	20.04	一部の割れ目ぞいや岩さがマンガン鉱染受け、黒褐色化するが劣化は伴わない。	一部の割れ目ぞいや岩さがマンガン鉱染受け、黒褐色化するが劣化は伴わない。	・表現の適正化(扱い、併用)	18.43	20.04	18.43~20.04m:一部の割れ目ぞいや岩さがマンガン鉱染を受け、黒褐色化するが劣化は伴わない。
44	18.90	18.90	50° 割れ目幅1~5mm/淡黄褐色砂はさむ。	50° 割れ目幅1~5mm淡黄褐色砂挟む。	・表現の適正化(括弧、mm)	18.90	18.90	18.90m:50° の割れ目幅1~5mmの淡黄褐色砂を挟む。
45	19.59	19.59	40° と80° 割れ目が交差。80° 割れ目は40° 割れ目に切られている。80° 割れ目は19.85mで幅10mm/砂状化するが下位に向うにつれて割れ目は閉じて行き、砂の挟持物も分布しなくなる。	40° と80° 割れ目が交差。80° 割れ目は40° 割れ目に止められる。切られている。80° 割れ目は19.85mで幅10mm砂状化するが下位に向うにつれて割れ目は閉じていき、砂の挟持物も分布しなくなる。40° の割れ目の細粒部は局所的。割れ目周辺の岩盤に原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・40° の割れ目の仕様にあふ同系統の割れ目は交差しているため「切られている」を止められるに変更した。 ・割れ目及び周辺について追記した。 ・表現の適正化(mm、向かう、いき) ・細粒の修正(挟持物⇒挟在物)	19.59	19.59	19.59m:40° と80° の割れ目が交差し、80° の割れ目は40° の割れ目に止められる。80° の割れ目は19.85mでは幅10mmで砂状化するが、下位に向うにつれて割れ目は閉じていき、砂の挟持物も分布しなくなる。40° の割れ目の細粒部は局所的である。割れ目周辺の岩盤に原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。
46	20.04	20.93	CM 一部に密着度の低い割れ目を含むが、岩片は堅硬。長石の一部は白濁するが、未変質で残留するものが多い。割れ目挟在物は殆ど分布しない。	-		-	-	20.04~20.93m:CM 一部に密着度の低い割れ目を含むが、岩片は堅硬。長石の一部は白濁するが、未変質で残留するものが多い。割れ目に挟在物は殆ど分布しない。
47	20.93	26.70	CL 45° 前後の割れ目主体。一部で70~90° の高角度割れ目と交差。割れ目ぞいに薄く砂状化するが、部分的に砂状化が拡大する部分も含む。また、所々幅1~2mm軟質灰白色粘土脈をはさむ。上層側の22.69m以下は硬さ「C」。22.69~23.71mは硬さ「C」。23.71m以下は硬さ「D」が主体で、硬さ「C」主体の間隙では割れ目に挟在物が分布しないものが多い。	CL 45° 前後の割れ目主体。一部で70~90° の高角度割れ目と交差。割れ目ぞいに薄く砂状化するが、部分的に砂状化が拡大する部分も含む。また、所々幅1~2mm軟質灰白色粘土脈を挟む。また、所々幅1~2mm軟質灰白色粘土脈を挟む。上層側の22.69m以下は硬さ「C」。22.69~23.71mは硬さ「C」。23.71m以下は硬さ「D」が主体で、硬さ「C」主体の間隙では割れ目に挟在物が分布しないものが多い。	・表現の適正化(括弧、扱い、所々、mm)	20.93	26.70	20.93~26.70m:CL 45° 前後の割れ目が主体。一部で70~90° の高角度割れ目と交差する。割れ目ぞいに薄く砂状化するが、部分的に砂状化が拡大する部分も含む。また、所々幅1~2mmの軟質灰白色粘土脈を挟む。22.69m以下は硬さ「C」。22.69~23.71mは硬さ「C」。23.71m以下は硬さ「D」が主体で、硬さ「C」主体の間隙では割れ目に挟在物が分布しないことが多い。
48	-	-	-	上層42°、下層49°の割れ目の間が全体的に風化し、砂状化が進んでいる。酸化、マンガン鉱染が見られる。	・酸化、マンガン鉱染を伴う砂状化は周囲と異なる状況であるため追記した。	21.14	21.24	21.14~21.24m:上層42°、下層49°の割れ目の間が全体的に風化し、砂状化が進む。酸化、マンガン鉱染が見られる。
49	21.55	21.65	風化による砂状部と硬さ「C」ないし「D」岩片で砂様状を呈する。粘土は殆んど伴わない。	風化による砂状部と硬さ「C」ないし「D」岩片で砂様状を呈する。粘土は殆んど伴わない。	・表現の適正化(併用)	21.55	21.65	21.55~21.65m:風化による砂状部と硬さ「C」ないし「D」の岩片で砂様状を呈する。粘土は殆んど伴わない。
50	21.70	22.40	高角度割れ目を主体に、厚さ1mm以下でごく薄くマンガン鉱染や幅1~3mmの軟質灰白色粘土脈が分布。	高角度割れ目を主体に、厚さ1mm以下でごく薄くマンガン鉱染や幅1~3mmの軟質灰白色粘土脈が分布。	・表現の適正化(mm)	21.70	22.40	21.70~22.40m:高角度割れ目を主体に、幅1mm以下でごく薄くマンガン鉱染や幅1~3mmの軟質灰白色粘土脈が分布する。
51	22.03	22.63	70~90° で湾曲して連続する割れ目ぞいに幅5~10mm/砂状化し、幅1~2mmの軟質粘土脈を伴う。	70~90° で湾曲して連続する割れ目ぞいに幅5~10mm/砂状化し、幅1~2mmの軟質粘土脈を伴う。	・表現の適正化(扱い、mm)	22.03	22.63	22.03~22.63m:70~90° で湾曲して連続する割れ目ぞいに幅5~10mmで砂状化し、幅1~2mmの軟質粘土脈を伴う。
52	22.10	22.45	一部に硬さ「C」岩片伴う。	一部に硬さ「C」岩片伴う。 高角度割れ目ぞいが風化している。	・風化について追記した。	22.10	22.45	22.10~22.45m:一部に硬さ「C」の岩片を伴う。高角度割れ目ぞいが風化する。

H27-B-3 22.50~26.90m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を考慮して表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度		記事
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
53	22.50	22.64	上端60° 幅2~3mm褐色粘土層、下端45° 幅1mm褐色粘土に囲まれて軟質化著しく、一部で幅0.5mm白色粘土層を網状に伴う。	上端60° 幅2~3mm褐色粘土層、下端45° 幅1mm褐色粘土に囲まれて軟質化著しく、一部で幅0.5mm白色粘土層を網状に伴う。	・表現の適正化(mm、軟質化)	22.50	22.64	22.50~22.64m、上端60° で幅2~3mmの褐色粘土層、下端45° で幅1mmの褐色粘土に囲まれて軟質化が著しく、一部で幅0.5mmの白色粘土層を網状に伴う。	
54	22.91	23.49	40° 前後の割れ目が同方向に分布、これらに直交~60° 斜交する60~80° 割れ目を止める切ることがある。	40° 前後の割れ目が同方向に分布、これらに直交~60° 斜交する60~80° 割れ目を止める切ることがある。 40° 割れ目の細粒部は、局所的で連続性に乏しい。割れ目周辺の岩盤に劣化が認められない。	・40° 前後の割れ目と直交する割れ目は横断するものも見られ、ズレの量も系統的ではない。 ・割れ目及び周辺の状況について追記した上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「切る」を「止める」に変更した	22.91	23.49	22.91~23.49m、40° 前後の割れ目が同方向に分布し、これらに直交~60° 斜交する60~80° の割れ目を止めることがある。40° の割れ目の細粒部は、局所的で連続性に乏しい。割れ目周辺の岩盤に劣化が認められない。	
55	23.45	23.71	幅1~3mm軟質白色粘土層を挟む90° 割れ目が分布。	幅1~3mm軟質白色粘土層を挟む90° 割れ目が分布。	・表現の適正化(挟む、mm)	23.45	23.71	23.45~23.71m、80° で幅1~3mmの軟質白色粘土層を挟む。	
56	23.71	24.53	軟化し硬さ「D」主体。	軟質化し、硬さ「D」主体。	・表現の適正化(軟質化)	23.71	24.53	23.71~24.53m、軟質化し、硬さ「D」主体。	
57	23.71	23.85	80~90° の高角度割れ目はマンガン鉱染に伴う。	-		23.71	23.85	23.71~23.85m、80~90° の高角度割れ目はマンガン鉱染に伴う。	
58	24.06	24.22	硬さ「C」主体。	-		24.06	24.22	24.06~24.22m、硬さ「C」主体。	
59	24.37	24.37	45° 厚さ2mm石英脈	45° 厚さ2mm石英脈	・表現の適正化(mm)	24.37	24.37	24.37m、45° で厚さ2mmの石英脈を挟む。	
60	24.53	26.70	硬さ「C」主体。上位よりも割れ目がやや少なくなる。	硬さ「C」主体。上位よりも割れ目がやや少なくなる。	・表現の適正化(やや)	24.53	26.70	24.53~26.70m、硬さ「C」主体。上位よりも割れ目がやや少なくなる。	
61	24.60	24.92	80~90° 割れ目に幅1~5mmのマンガン鉱染で黒褐色砂を挟む。	80~90° 割れ目に幅1~5mmのマンガン鉱染で黒褐色砂を挟む。	・表現の適正化(厚さ幅、挟む、mm)	24.60	24.92	24.60~24.92m、80~90° の割れ目に幅1~5mmのマンガン鉱染で黒褐色砂を挟む。	
62	25.00	25.81	25.00~25.81m及び25.09~25.28m、85~90° 割れ目に厚さ1~2mmで一部マンガン鉱染で黒褐色化した砂を挟む。一部で風化により軟化し硬さ「D」の部分も認められる。	25.00~25.81m及び25.09~25.28m、85~90° 割れ目に厚さ1~2mmで一部マンガン鉱染で黒褐色化した砂を挟む。一部で風化により軟化し硬さ「D」の部分も認められる。	・表現の適正化(挟む、mm、軟質化)	25.00	25.81	25.00~25.81m及び25.09~25.28m、85~90° の割れ目に幅1~2mmで一部マンガン鉱染で黒褐色化した砂を挟む。一部で風化により軟質化し硬さ「D」の部分も認められる。	
63	25.80	-	25.80m以深で割れ目多くなる。割れ目ぞいに砂状化する部分が多い。	25.80m以深で割れ目多くなる。割れ目ぞいに砂状化する部分が多い。	・表現の適正化(治い)	25.80	-	25.80m以深は割れ目が多くなる。割れ目ぞいに砂状化する部分が多い。	
64	26.22	26.22	50° 割れ目は交差する高角度割れ目を切っている。(ズレ、5m/m)	50° 割れ目は交差する高角度割れ目を止めている。切っている。(ズレ、3mm)。割れ目の細粒部は局所的で連続性に乏しい。	・50° 割れ目の深い側が高角度割れ目1条、深い側には条あり、系統的なズレとして認められない。また、50° 割れ目と交差する幅1mm程度の石英脈が見られるため「切っている」を「止めている」に変更し、割れ目の挟む物について追記した	26.22	26.22	26.22m、50° の割れ目は交差する高角度割れ目を止めている。割れ目の細粒部は局所的で連続性に乏しい。	
65	26.70	26.90	破砕帯(主せん断面26.70m)	破砕帯(最新活動面26.71m)	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・最も直線的な面として最新活動面深度を26.71mに変更した	26.70	26.90	●26.70~26.90m、破砕部 26.70m、粘土状部(Hc-1) 傾斜43° で上下端ともに直線的に連続。石英粒、岩片を含まない。軟質。淡黄色を呈する。幅1mm以下。 26.70~26.90m、粘土泥じり塊状部(H) 上端43° で直線的に、下端54° でやや湾曲して連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む。軟質。 26.71mに幅1mmで直線的な灰白色粘土(Hc-1)を挟む。下部は幅1~2mmの粘土層を伴う。灰白色を呈する。幅160~180mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
66	26.70	26.70	Hc-1 43° で上下端ともに直線的に連続。石英粒、岩片を含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y8/3)。厚さ1mm以下。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。	Hc-1 43° で上下端ともに直線的に連続。石英粒、岩片を含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は淡黄色(2.5Y8/3)。厚さ1mm以下。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。	・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の統一(ガウジ→Hc-1)に含んで表現 ・表現の適正化(やや、mm) ・記載の修正(「色」の記載漏れ)	26.70	26.70	●26.70~26.90m、破砕部 26.70m、粘土状部(Hc-1) 傾斜43° で上下端ともに直線的に連続。石英粒、岩片を含まない。軟質。淡黄色を呈する。幅1mm以下。 26.70~26.90m、粘土泥じり塊状部(H) 上端43° で直線的に、下端54° でやや湾曲して連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む。軟質。 26.71mに幅1mmで直線的な灰白色粘土(Hc-1)を挟む。下部は幅1~2mmの粘土層を伴う。灰白色を呈する。幅160~180mm。	
67	26.70	26.90	Hc 上端43° で直線的に、下端54° でやや湾曲して連続。径2~3mm石英粒、径5~10mm粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む軟質な粘土泥じり塊状を呈する。 26.71mに幅1mmで直線的な灰白色粘土(Hc-1)を挟む。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。 下部は厚さ1~2mmの粘土層。色調は灰白(2.5Y8/2~7.5YR8/2)。厚さ160~180mm。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	Hc 上端43° で直線的に、下端54° でやや湾曲して連続。径2~3mm石英粒、径5~10mm粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む軟質な粘土泥じり塊状を呈する。 26.71mに幅1mmで直線的な灰白色粘土(Hc-1)を挟む。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。 下部は厚さ1~2mmの粘土層。色調は灰白(2.5Y8/2~7.5YR8/2)。厚さ160~180mm。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・破砕部であるため破砕部内物質の名称及び破砕部区分を変更した ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・26.71mの直線的な粘土の挟む物について追記した ・表現の適正化(やや、mm) ・記載の修正(「色」の記載漏れ)	26.70	26.90	●26.70~26.90m、破砕部 26.70m、粘土状部(Hc-1) 傾斜43° で上下端ともに直線的に連続。石英粒、岩片を含まない。軟質。淡黄色を呈する。幅1mm以下。 26.70~26.90m、粘土泥じり塊状部(H) 上端43° で直線的に、下端54° でやや湾曲して連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む。軟質。 26.71mに幅1mmで直線的な灰白色粘土(Hc-1)を挟む。下部は幅1~2mmの粘土層を伴う。灰白色を呈する。幅160~180mm。	

H27-B-3 26.70~29.12m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を考慮して表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
68	26.70	26.90	(破砕度区分)Hb	26.70	26.90	(破砕度区分)Hb			(破砕度区分)Hb	-
69	26.90	27.57	D 27.00m以浅は砂礫状、27.00m以深はバラけた礫状を呈するが、27.00m以深も本来は砂状の基質と岩片で形成されていると推定される。	-	-	-			26.90~27.57m:D 27.00m以浅は砂礫状、27.00m以深はバラけた礫状を呈するが、27.00m以深も本来は砂状の基質と岩片で形成されていたと推定される。	-
70	27.57	28.12	CL 硬さ「C」岩片も残存するが、全体的には硬さ「D」に軟化。割れ目ぞいに薄く砂や粘土をはさむことが多い。	27.57	28.12	CL 硬さ「C」岩片主体である。も残存するが、全体的には硬さ「D」に軟化。割れ目ぞいに薄く砂や粘土をはさむことが多い。			27.57~28.12m:CL 硬さ「C」の岩片主体である。割れ目ぞいに薄く砂や粘土をはさむことが多い。	-
71	-	-	-	27.98	27.98	37' 割れ目に幅10mmの白色シルトを挟む。			27.98m:37' の割れ目に幅10mmの白色シルトを挟む。	-
72	28.12	28.14	(岩級区分)D	28.12	28.14	(岩級区分)CL			28.12 28.14 (岩級区分)CLに含める	-
73	28.12	28.14	破砕帯(主せん断面28.12m)	28.12	28.14	破砕帯(最新活動面28.12m)			●28.12~28.14m:破砕部 28.12m:粘土状部(Hc-1) 傾斜43°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわずが(5%以下)含む。軟質、浅黄色を呈する。幅1~3mm。 28.12~28.14m:撓質砂状部(Hb) 上端43°で直線的に、下端45~55°で波打って連続。粘土化と砂状化の著しい径3~5mmの岩片からなり「撓質砂状」を呈する。 色調は淡黄色(7.5YR7/3)。厚さ1~3mm。	-
74	28.12	28.12	Hc-1 43°で上下端ともに直線的に連続。径1mm石英粒をこくわずが(5%以下)含む撓質粘土(ガウジ)。色調は淡黄(7.5YR7/3)。厚さ1~3mm。	28.12	28.12	Hc-1 43°で上下端ともに直線的に連続。径1mm石英粒をこくわずが(5%以下)含む撓質粘土(ガウジ)。色調は淡黄色(7.5YR7/3)。厚さ1~3mm。			●28.12~28.14m:破砕部 28.12m:粘土状部(Hc-1) 傾斜43°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわずが(5%以下)含む。軟質、浅黄色を呈する。幅1~3mm。 28.12~28.14m:撓質砂状部(Hb) 上端43°で直線的に、下端45~55°で波打って連続。粘土化と砂状化の著しい径3~5mmの岩片からなり「撓質砂状」を呈する。色調は淡黄色(7.5YR7/3)。厚さ1~3mm。	-
75	28.12	28.14	Hb 上端43°で直線的に、下端45~55°で波打って連続。粘土化と砂状化の著しい径3~5mmの岩片からなり「撓質砂状」を呈する。 色調は淡黄色(7.5YR7/3)。厚さ1~3mm。	28.12	28.14	Hb 上端43°で直線的に、下端45~55°で波打って連続。粘土化と砂状化の著しい径3~5mmの岩片からなり「撓質砂状」を呈する。 色調は淡黄色(7.5YR7/3)。厚さ1~3mm。			●28.12~28.14m:破砕部 28.12m:粘土状部(Hc-1) 傾斜43°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわずが(5%以下)含む。軟質、浅黄色を呈する。幅1~3mm。 28.12~28.14m:撓質砂状部(Hb) 上端43°で直線的に、下端45~55°で波打って連続。粘土化と砂状化の著しい径3~5mmの岩片からなり「撓質砂状」を呈する。色調は淡黄色(7.5YR7/3)。厚さ1~3mm。	-
76	28.12	28.14	(破砕度区分)Hb	28.12	28.14	(破砕度区分)Hb			28.12 28.14 (破砕度区分)Hb	-
77	28.14	29.10	CL 硬さ「C」主体で、下端側の28.85m以深で硬さ「D」と風化で軟化。割れ目は直上位の破砕帯主せん断面と同方向に近い40~60°で分布する。	28.14	29.10	CL 硬さ「C」主体で、下端側の28.85m以深で硬さ「D」と風化で軟化。割れ目は直上位の破砕帯のHc-1の粘土と同方向に近い40~60°で分布する。			28.14~29.10m:CL 硬さ「C」主体で、28.85m以深は風化し硬さ「D」に軟化する。割れ目は直上位の破砕帯のHc-1の粘土と同方向に近い40~60°で分布する。	-
78	29.10	29.12	(岩級区分)D	29.10	29.12	(岩級区分)CL			29.10 29.12 (岩級区分)CLに含める	-
79	29.10	29.12	破砕帯(主せん断面29.10m)	29.10	29.12	破砕帯(最新活動面29.10m) 最新活動面は上端から上端に近い面(共に29.10m)の可能性が高い。			●29.10~29.12m:破砕部 29.10~29.11m:粘土状部(Hc-1) 上端49°で直線的に、下端50°で波打って連続。径1mmの石英粒をこくわずが(5%以下)含む。軟質、上端側は灰白色、中央部~下端側は灰黄褐色で連続を呈する。幅5~10mm。 29.11~29.12m:撓質粘土状部(Hb) 上端60°、下端45~55°でいずれも波打って連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの粘土化した岩片を20%程度含む。やや硬質。オリブ色帯びた灰白色を呈する。幅7~11mm。	-
80	29.10	29.11	Hc-1 上端49°で直線的に、下端50°で波打って連続。径1mm石英粒をこくわずが(5%以下)含む軟質~半硬質撓質粘土(ガウジ)。 色調は、上端側 灰白(10YR8/2)、中央 灰黄褐色(10YR4/2)、下端側 灰黄褐色(10YR6/2)の撓質砂状を呈する。厚さ5~10mm。	29.10	29.11	Hc-1 上端49°で直線的に、下端50°で波打って連続。径1mm石英粒をこくわずが(5%以下)含む軟質~半硬質撓質粘土(ガウジ)。 色調は、上端側 灰白(10YR8/2)、中央 灰黄褐色(10YR4/2)、下端側 灰黄褐色(10YR6/2)の撓質砂状を呈する。厚さ5~10mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。			●29.10~29.12m:破砕部 29.10~29.11m:粘土状部(Hc-1) 上端49°で直線的に、下端50°で波打って連続。径1mmの石英粒をこくわずが(5%以下)含む。軟質、上端側は灰白色、中央部~下端側は灰黄褐色で連続を呈する。幅5~10mm。 29.11~29.12m:撓質粘土状部(Hb) 上端60°、下端45~55°でいずれも波打って連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの粘土化した岩片を20%程度含む。やや硬質。オリブ色帯びた灰白色を呈する。幅7~11mm。	-
81	29.11	29.12	Hb 上端50°、下端45~55°でいずれも波打って連続。径1~2mm石英粒、径3~5mmの粘土化岩片を20%程度含むや硬質の撓質粘土状を呈する。色調はオリブ色帯びた灰白色(7.5Y8/2)。厚さ7~11mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	29.11	29.12	Hb 上端50°、下端45~55°でいずれも波打って連続。径1~2mm石英粒、径3~5mmの粘土化岩片を20%程度含むや硬質の撓質粘土状を呈する。色調はオリブ色帯びた灰白色(7.5Y8/2)。厚さ7~11mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。			●29.10~29.12m:破砕部 29.10~29.11m:粘土状部(Hc-1) 上端49°で直線的に、下端50°で波打って連続。径1mmの石英粒をこくわずが(5%以下)含む。軟質、上端側は灰白色、中央部~下端側は灰黄褐色で連続を呈する。幅5~10mm。 29.11~29.12m:撓質粘土状部(Hb) 上端60°、下端45~55°でいずれも波打って連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの粘土化した岩片を20%程度含む。やや硬質。オリブ色帯びた灰白色を呈する。幅7~11mm。	-

H27-B-3 29.12~35.94m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を考慮して表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
82	29.12	30.56	CL 30.02m以深は硬さ「D」、以深は硬さ「C」主体。	29.12	30.56	CL 30.02m以深は硬さ「D」、以深は硬さ「C」主体。	29.12	30.56	29.12~30.56m:CL 30.02m以深は硬さ「D」、以深は硬さ「C」主体。	-
83	-	-	-	29.47	29.59	網目状の割れ目に白色粘土、マンガン鉱染が見られる。	29.47	29.59	29.47~29.59m:網目状の割れ目に白色粘土、マンガン鉱染が見られる。	-
84	30.55	30.55	30.55m付近をはじめ、割れ目沿いに風化で砂状化する部分がある。 密着度の低い割れ目、ゆる割れ目が多い。	30.55	30.55	30.55m付近をはじめ、割れ目沿いに風化で砂状化する部分がある。 密着度の低い割れ目、ゆる割れ目が多い。	30.55	30.55	30.55m付近をはじめ、割れ目沿いに風化で砂状化する部分がある。密着度の低い割れ目、ゆる割れ目が多い。	-
85	29.15	29.60	割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。	29.15	29.60	割れ目沿いや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。	29.15	30.56	29.15~29.60m、30.30~30.56m:割れ目沿いや岩芯の一部が弱くマンガン鉱染を受ける。	記事内容が同じであるため、30.30~30.56mの深度も含めて記載した。
86	30.00	31.00	(ROD標)36 (最大コア長標)26	30.00	31.00	(ROD標)44 (最大コア長標)34	30.00	31.00	(ROD標)44 (最大コア長標)34	-
87	30.30	30.56	割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。	30.30	30.56	割れ目沿いや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。	-	-	-	上記にまとめ書きしたため記載しない
88	30.56	32.21	CH 堅硬、割れ目挟持物は一部を除き分布しない。 割れ目や岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。 コア中には密着度の低い割れ目やゆる割れ目は殆んど分布しない。	30.56	32.21	CH 堅硬、割れ目挟持物は一部を除き分布しない。 割れ目や岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。 コア中には密着度の低い割れ目やゆる割れ目は殆んど分布しない。	30.56	32.21	30.56~32.21m:CH 堅硬、割れ目の挟持物は一部を除き分布しない。割れ目や岩芯の一部は弱くマンガン鉱染を受けるが、劣化は伴わない。密着度の低い割れ目やゆる割れ目は殆んど分布しない。	-
89	31.30	31.30	31.30m付近は割れ目が交差し、短柱状(コア長5cm前後)に砕けている。	31.30	31.30	31.30m付近は59°、54°の割れ目が交差し、短柱状(コア長5cm前後)に砕けている。	31.30	31.30	31.30m付近は59°、54°の割れ目が交差し、短柱状(コア長5cm前後)に砕けている。	-
90	31.62	31.66	上下端とも50°割れ目に囲まれ軟質化する。上下端には各々幅2mm、0.5mmの軟質褐色粘土脈をはさむ。	31.62	31.66	上下端とも50°割れ目に囲まれ軟質化する。上下端には各々幅2mm、0.5mmの軟質褐色粘土脈をはさむ。	31.62	31.66	31.62~31.66m:上下端とも50°の割れ目に囲まれ軟質化する。上下端には各々幅2mm、0.5mmの軟質褐色粘土脈をはさむ。	-
91	32.11	32.11	40°割れ目をはさみ厚さ15~20mm緑泥石化し、色調が淡緑灰色化する。 0.5mm以下の微細なセリサイトを伴う。劣化や粘土化はない。	32.11	32.11	40°割れ目が厚さ15~20mmで緑泥石化し、色調が淡緑灰色化する。 0.5mm以下の微細なセリサイトを伴う。劣化や粘土化はない。	32.11	32.11	32.11m:40°の割れ目が幅15~20mmで緑泥石化し、淡緑灰色化する。径0.5mm以下の微細なセリサイトを伴う。劣化や粘土化はない。	-
92	32.21	33.09	CM 一部で挟持物を挟むが挟まない割れ目が主体。密着度の低い割れ目を多く含む。一部では開口化している。	32.21	33.09	CM 一部で挟持物を挟むが挟まない割れ目が主体。密着度の低い割れ目を多く含む。一部では開口化している。	32.21	33.09	32.21~33.09m:CM 一部を除き、挟持物を挟まない割れ目が主体。密着度の低い割れ目を多く含む。一部では開口化している。	-
93	33.30	33.53	割れ目ぞいや岩芯の一部がマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。	33.30	33.53	割れ目沿いや岩芯の一部がマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。	33.30	33.53	33.30~33.53m:割れ目沿いや岩芯の一部がマンガン鉱染を受けるが、劣化は伴わない。	-
94	32.53	32.53	45°幅2mm軟質黄褐色粘土挟み、その上下端には粘土とほぼ直交する割れ目が分布する。	32.53	32.53	45°幅2mm軟質黄褐色粘土挟み、その上下端には粘土とほぼ直交する割れ目が分布する。	32.53	32.53	32.53m:45°で幅2mmの軟質黄褐色粘土挟み、その上下端には粘土とほぼ直交する割れ目が分布する。	-
95	33.09	34.20	CL 60~90°の高角度割れ目が多く、一部で分岐~収れんを繰り返す。これら割れ目はマンガン鉱染や幅1~2mmの軟質な灰白色粘土を脈状に伴うことが多い。 また風化による砂状化が拡大する部分もある。 33.70m以深では硬さ「C」の岩片も多く含むようになる。	33.09	34.20	CL 60~90°の高角度割れ目が多く、一部で分岐~収れんを繰り返す。これら割れ目はマンガン鉱染や幅1~2mmの軟質な灰白色粘土を脈状に伴うことが多い。 また風化による砂状化が拡大する部分もある。 33.70m以深では硬さ「C」の岩片も多く含むようになる。	33.09	34.20	33.09~34.20m:CL 60~90°の高角度割れ目が多く、一部で分岐~収れんを繰り返す。これらとの割れ目はマンガン鉱染や幅1~2mmの軟質な灰白色粘土を脈状に伴うことが多い。 また風化による砂状化が拡大する部分もある。33.70m以深は硬さ「C」の岩片も多く含む。	-
96	34.20	34.20	40°割れ目は厚さ2~3mm、やや硬質な灰白色粘土脈をはさむ。	34.20	34.20	40°割れ目は厚さ2~3mm、やや硬質な灰白色粘土脈をはさむ。	34.20	34.20	34.20m:40°で幅2~3mmのやや硬質な灰白色粘土脈をはさむ。	-
97	34.20	35.94	CM 殆んどの割れ目に挟持物は分布しないが、岩芯の一部も含め、軽微なマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。 密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。白濁化した長石が多い。	34.20	35.94	CM 殆んどの割れ目に挟持物は分布しないが、岩芯の一部も含め、軽微なマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。 密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。白濁化した長石が多い。	34.20	35.94	34.20~35.94m:CM 殆んどの割れ目に挟持物は分布しないが、岩芯の一部も含め、弱くマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。白濁化した長石が多い。	-

H27-B-3 35.31~41.95m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を考慮して表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
98	35.31	35.31	60° 割れ目ぞい厚さ3~5mm砂状化。	35.31	35.31	60° 割れ目ぞい厚さ3~5mm砂状化。			35.31m:60° の割れ目ぞいに幅3~5mmが砂状化する。		
99	35.47	35.47	5° 割れ目で90° 割れ目が切られる(変位量不明)。	35.47	35.47	5° 割れ目で90° 割れ目が止められる。切られる(変位量不明)。 5° の割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。			35.47m:5° の割れ目で90° の割れ目が止められる。5° の割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。		
100	35.94	37.00	CH 堅硬。割れ目挟雑物も分布しない。	35.94	37.00	CH 堅硬。割れ目挟雑物も分布しない。			35.94~37.00m:CH 堅硬。割れ目に挟雑物は分布しない。		
101	36.07	36.32	割れ目ぞいや岩芯の一部でマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。ただし、密着度の低い割れ目が区間内に数本分布する。	36.07	36.32	割れ目ぞいや岩芯の一部でマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。ただし、密着度の低い割れ目が区間内に数本分布する。			36.07~36.32m:割れ目ぞいや岩芯の一部でマンガン鉱染を受けるが、劣化は伴わない。密着度の低い割れ目が区間内に数本分布する。		
102	37.03	37.03	57° 割れ目ぞいの一部で厚さ3mm前後が砂~細片化する。この57° の割れ目は変換する割れ目を切っている(変位量不明)。	37.03	37.03	57° 割れ目ぞいの一部で厚さ3mm前後が砂~細片化する。この57° の割れ目を横断する潜在割れ目が37.05m、37.08mに見られる。切っ迫している(変位量不明)。 57° の割れ目の砂~細片化部は連続性に乏しく、割れ目周辺の原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。			37.03m:57° の割れ目ぞいの一部で幅3mm前後が砂~細片化する。 57° の割れ目を横断する潜在割れ目が37.05m、37.08mに見られる。57° の割れ目の砂~細片化部は連続性に乏しく、割れ目周辺の原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。		
103	37.30	37.55	(岩級区分)CM	37.30	37.55	(岩級区分)CL			37.30	37.55	(岩級区分)CLに含める
104	37.30	37.55	CM 直上位に比べ岩片がやや軟質化する。	37.30	37.55	CM 直上位に比べ岩片がやや軟質化する。			37.30~37.55m:CM 直上位に比べ岩片がやや軟質化する。		
105	37.55	37.69	CL 上下端をマンガン脈に囲まれ軟質化が進んでいる。マンガンは砂状化する。	37.55	37.69	CL 上下端をマンガン脈に囲まれ軟質化が進んでいる。マンガンは砂状化する。			37.55~37.69m:CL 上下端をマンガン脈に囲まれ軟質化が進む。マンガンは砂状化する。		
106	37.69	37.81	(岩級区分)D	37.69	37.81	(岩級区分)CL			37.69	37.81	(岩級区分)CLに含める
107	37.69	37.81	D 50~60° 割れ目ぞいに風化による砂状化進む。幅1mm以下の白色粘土層も伴う。	37.69	37.81	D 50~60° 割れ目ぞいに風化による砂状化進む。幅1mm以下の白色粘土層も伴う。			37.69~37.81m:D 50~60° の割れ目ぞいに風化で砂状化が進む。幅1mm以下の白色粘土層も伴う。		
108	37.81	38.30	CL	-	-	-			37.81~38.30m:CL		
109	38.21	38.21	38.21m以深では50° 前後の割れ目ぞいに風化、砂状化進む。また少量の厚さ1~2mm白色~褐色軟質粘土層も伴う。	38.21	38.21	38.21m以深では50° 前後の割れ目ぞいに風化、砂状化進む。また少量の厚さ1~2mm白色~褐色軟質粘土層も伴う。			38.21m以深は50° 前後の割れ目ぞいに風化、砂状化進む。また、少量の幅1~2mmの白色~褐色軟質粘土層も伴う。		
110	38.50	39.14	CM 一部で中層割れ目を含むが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	-	-	-			38.50~39.14m:CM 一部で中層割れ目を含むが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。		
111	39.14	40.79	CL 密着度の低い割れ目を多く含む。ハンマーの強打で大半は分離・細片化する。割れ目には砂や粘土を厚さ1~2mmではさむことが多い。	39.14	40.79	CL 密着度の低い割れ目を多く含む。ハンマーの強打で大半は分離・細片化する。割れ目には砂や粘土を厚さ1~2mmで挟むことが多い。			39.14~40.79m:CL 密着度の低い割れ目を多く含む。ハンマーの強打で大半は分離・細片化する。割れ目には砂や粘土を厚さ1~2mmで挟むことが多い。		
112	40.14	40.26	50~60° 割れ目に厚さ1~2mmの軟質粘土層はさむ。	40.14	40.26	50~60° 割れ目に厚さ1~2mmの軟質粘土層はさむ。			40.14~40.26m:50~60° の割れ目に幅1~2mmの軟質粘土層を挟む。		
113	40.42	-	40.42m以深は岩片自身の軟化が進み、割れ目ぞいの砂状化も拡大する。	40.42	-	40.42m以深は岩片自身の軟化が進み、割れ目ぞいの砂状化も拡大する。			40.42m以深は岩片自身の軟化が進み、割れ目ぞいの砂状化も拡大する。		
114	-	-	-	40.72	40.72	50° の割れ目に幅1mmの軟質灰白色粘土を挟む。			40.72m:50° の割れ目に幅1mmの軟質灰白色粘土を挟む。		
115	40.79	41.33	CM 一部の割れ目を除き、割れ目の実在物は分布しない。	-	-	-			40.79~41.33m:CM 一部の割れ目を除き、割れ目に挟雑物は分布しない。		
116	41.30	-	41.30m以深では密着度の低い割れ目が多い。一部では開口化している。	-	-	-			41.30m以深は密着度の低い割れ目が多い。一部では開口化している。		
117	41.30	41.30	60° 割れ目ぞいに径2~4mm石英が多く露出している。	41.30	41.30	60° 割れ目ぞいに径2~4mm石英が多く露出している。			41.30m:60° の割れ目ぞいに径2~4mmの石英が多く露出している。		
118	41.83	41.95	(岩級区分)D	41.83	41.95	(岩級区分)CL			41.83	41.95	(岩級区分)CLに含める

H27-B-3 41.83~45.40m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を考慮して表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度		記事
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
119	41.83	41.95	D 上端60° 下端55° 割れ目に囲まれ砂状化する。割れ目と原岩組織は不明瞭化。	D 上端60° 下端55° 割れ目に囲まれ砂状化する。割れ目と原岩組織は不明瞭化。	・表視の適正化(原岩組織)	41.83	41.95	41.83~41.95m:D 上端60°、下端55°の割れ目に囲まれ砂状化する。割れ目と原岩組織は不明瞭である。	
120	41.95	42.78	CL 割れ目は直下の破砕帯と主せん断面と同方向の40~50° 割れ目が主体。割れ目の多くに粘土脈や砂の薄層を挟む。長石の一部が白濁化している。	CL 割れ目は直下の破砕帯の上端境界と同方向の40~50° 割れ目が主体。割れ目の多くに粘土脈や砂の薄層を挟む。長石の一部が白濁化している。	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・主せん断面は評価結果であるため記載しないこととし、上端境界に変更した ・表視の適正化(挟む)	41.95	42.78	41.95~42.78m:CL 割れ目は直下の破砕帯の上端境界と同方向の40~50°の割れ目が主体。割れ目の多くに粘土脈や砂の薄層を挟む。長石の一部が白濁化している。	
121	42.36	42.40	42.36~42.40mは上下端とも40° 割れ目に囲まれ風化・砂状化。	-		42.36	42.40	42.36~42.40m:上下端とも40°の割れ目に囲まれて風化・砂状化する。	
122	42.78	43.00	(岩級区分)D	(岩級区分)CL	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	42.78	43.00	(岩級区分)CLに含める	
123	42.78	42.85	D 風化で著しく軟化するが、岩粒線や割れ目の一部は残留している。	D 風化で著しく軟化するが、原岩組織や割れ目の一部は残留している。	・表視の適正化(軟質化、原岩組織)	42.78	42.85	42.78~42.85m:D 風化で著しく軟化するが、原岩組織や割れ目の一部は残留する。	
124	42.85	42.91	破砕帯(主せん断面42.85m)	破砕部(最新活動面42.85m)	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一	42.85	42.91	●42.85~42.91m:破砕部 42.85~42.87m:粘土混じり破砕部(H) 上端45°で直線的に、下端41°で波打って連続。径1~2mmの石英粒、径5mmの粘土化した岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。上端層1~2mmは風化で褐色化(明黄褐色10YR6/6)。明褐色の粘土フィルム状に伴う。色調は灰白色(2.5Y8/1)。厚さ15~25mm。 やや硬質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
125	42.85	42.87	Hc-2 上端45°で直線的に、下端41°で波打って連続。径1~2mmの石英粒、径5mmの粘土化した岩片を20%程度含む半固結粘土(ガウジ)。上端層1~2mmは風化で褐色化(明黄褐色10YR6/6)。明褐色の粘土フィルム状に伴う。色調は灰白色(2.5Y8/1)。厚さ15~25mm。	Hc 上端45°で直線的に、下端41°で波打って連続。径1~2mmの石英粒、径5mmの粘土化した岩片を主体とし、20%程度含む半固結粘土(ガウジ)。上端層1~2mmは風化で褐色化(明黄褐色10YR6/6)。明褐色の粘土フィルム状に伴う。色調は灰白色(2.5Y8/1)。厚さ15~25mm。 やや硬質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・種主体であるため破砕部内物質の名称及び破砕度区分を変更した ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・粘土主体ではないため「ガウジ」を削除した ・表視の適正化(mm) ・表記の修正(「色」の記載漏れ)	42.85	42.91	●42.85~42.91m:破砕部 42.85~42.87m:粘土混じり破砕部(H) 上端45°で直線的に、下端41°で波打って連続。径1~2mmの石英粒、径5mmの粘土化した岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。上端層1~2mmは風化で褐色化(明黄褐色10YR6/6)。明褐色の粘土フィルム状に伴う。色調は灰白色(2.5Y8/1)。厚さ15~25mm。 やや硬質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	
126	42.87	42.91	Hc 上端41° 下端66°でいずれも波打って連続。下端は不明瞭な部分もある。径5~10mmの粘土化→硬さ[D]岩片からなり、岩片間の一部は粘土~幅1mm白色軟質粘土脈が分布している。全体に粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)。厚さ60mm	Hc 上端41° 下端66°でいずれも波打って連続。下端は不明瞭な部分もある。径5~10mmの粘土化→硬さ[D]岩片からなり、岩片間の一部は粘土~幅1mm白色軟質粘土脈が分布している。全体に粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)。厚さ20~30mm。 やや硬質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・コアに合わせて真層を変更した(区間長と幅の関係が不整合であった) ・表視の適正化(mm) ・表記の修正(「色」の記載漏れ)	42.87	42.91	Hc 上端41° 下端66°でいずれも波打って連続。下端は不明瞭な部分もある。径5~10mmの粘土化→硬さ[D]岩片からなり、岩片間の一部は粘土~幅1mm白色軟質粘土脈が分布している。全体に粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)。厚さ20~30mm。 やや硬質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	
127	42.85	42.87	(破砕度区分)Hc-2	(破砕度区分)Hc	・上層の変更に伴い、変更した	42.85	42.87	(破砕度区分)Hc	
128	42.91	43.00	D 締った砂礫状を呈する。岩組織と割れ目は消滅している。白色粘土を脈状に伴う。	D 硬質な砂礫状を呈する。原岩組織と割れ目は消滅している。白色粘土を脈状に伴う。	・表視の適正化(締った⇒硬質、原岩組織)	42.91	43.00	42.91~43.00m:D 硬質な砂礫状を呈する。原岩組織と割れ目は消滅する。白色粘土を脈状に伴う。	
129	43.00	43.17	CL 割れ目ぞいに砂状化する。白色粘土を脈状に伴う。	CL 割れ目ぞいに砂状化する。白色粘土を脈状に伴う。	・表視の適正化(治い)	43.00	43.17	43.00~43.17m:CL 割れ目ぞいに砂状化する。白色粘土を脈状に伴う。	
130	43.17	45.66	GM 硬さ「C」を主体とするが、一部に硬さ「B」の堅硬な柱状コアを含む。 割れ目の一部に幅1~2mmの粘土、砂の薄層を挟む。挟まない割れ目が主体。面は薄く褐色化するものが多いが劣化はない。 一部で砂質割れ目を含むが密度は高くハンマーの強打でも分離しないものが主体。	GM 硬さ「C」を主体とするが、一部に硬さ「B」の堅硬な柱状コアを含む。 割れ目の一部に幅1~2mmの粘土、砂の薄層を挟む。挟まない割れ目が主体。面は薄く褐色化するものが多いが劣化はない。 一部で砂質割れ目を含むが密度は高くハンマーの強打でも分離しないものが主体。	・表視の適正化(mm)	43.17	45.66	43.17~45.66m:GM 硬さ「C」を主体とするが、一部に硬さ「B」の堅硬な柱状コアを含む。割れ目の一部に幅1~2mmの粘土、砂の薄層を挟む。挟まない割れ目が主体。面は薄く褐色化するものが多いが劣化はない。 一部で砂質割れ目を含むが密度は高くハンマーの強打でも分離しないものが主体。	
131	-	45.66	GM	GM	・上記で記載しているため削除した	-	-	-	・上記でGM級の詳細を記載しているため記載しない
132	45.00	45.40	80~90°の高角度割れ目が連続、交差する割れ目の一部は高角度割れ目で切られている。	80~90°の高角度割れ目が連続、交差する割れ目の一部は高角度割れ目で止められる。切っかけている。高角度割れ目は、凹凸が顕著であるが、面のみ合わせは良い。細粒部は認められない。周辺の岩壁に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・深度45.08mの45°割れ目は高角度割れ目と交差している。また、高角度割れ目は凹凸が顕著であるが、その積み合わせが割れ目を挟んで一致しているため「切られている」を「止められる」に変更した ・割れ目及び傾斜の状況について追記した	45.00	45.40	45.00~45.40m:80~90°の高角度割れ目が連続、交差する割れ目の一部は高角度割れ目で止められる。高角度割れ目は、凹凸が顕著であるが、面のみ合わせは良い。細粒部は認められない。周辺の岩壁に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	

H27-B-3 45.00~51.64m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を考慮して表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
133	45.00	46.00	(RQD欄)12 (最大コア長欄)12	45.00	46.00	(RQD欄)0 (最大コア長欄)7		45.00	46.00	(RQD欄)0 (最大コア長欄)7	
134	45.41	45.50	割れ目が交差し、一部径5~20mmに片状化するが砂や粘土は含まない。	45.41	45.50	割れ目が交差し、一部径5~20mmに片状化するが砂や粘土は含まない。	・表現の適正化(狭む, mm)	45.41	45.50	45.41~45.50m: 割れ目が交差し、一部径5~20mmに片状化するが、砂や粘土は含まない。	
135	45.56	46.14	CL 風化で割れ目ぞいに細片化~砂状化が拡大する。45.96m以深では硬さ「C」の硬質岩片も多く含む。少量の軟質な白色粘土も混在している。	45.56	46.14	CL 風化で割れ目ぞいに細片化~砂状化が拡大する。45.96m以深では硬さ「C」の硬質岩片も多く含む。少量の軟質な白色粘土も混在している。	・表現の適正化(沿い)	45.56	46.14	45.56~46.14m: CL 風化で割れ目ぞいに細片化~砂状化が拡大する。45.96m以深では硬さ「C」の硬質岩片も多く含む。少量の軟質な白色粘土も混在している。	
136	46.14	47.58	CM 堅硬である多くの長石が白濁化する。割れ目挟在物は殆んど分布しない。	46.14	47.58	CM 堅硬である多くの長石が白濁化する。割れ目挟在物は殆んど分布しない。	・傾記の修正(挟在物=挟在物)	46.14	47.58	46.14~47.58m: CM 堅硬であるが、長石の多くは白濁化する。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。	
137	47.00	47.23	割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。	47.00	47.23	割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。	・表現の適正化(沿い)	47.00	47.23	47.00~47.23m: 割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。	
138	47.24	47.29	上下端の割れ目とほぼ同方向に砂~5~10mm/mに片状化する。岩片自身は硬さ「C」「B」と硬い。	47.24	47.29	上端35°、下端23°の割れ目とほぼ同方向に砂~5~10mmに片状化する。岩片自身は硬さ「C」「B」と硬い。	・傾斜を追記した ・表現の適正化(ほぼ, mm)	47.24	47.29	47.24~47.29m: 上端35°、下端23°の割れ目とほぼ同方向に砂~径5~10mmに片状化する。岩片自身は硬さ「C」「B」と硬い。	
139	47.58	47.77	CL 35~45° 割れ目が多く、この割れ目ぞいに厚さ2~5mm程度砂状~細片状化。	47.58	47.77	CL 35~45° 割れ目が多く、この割れ目ぞいに厚さ2~5mm程度砂状~細片状化。	・表現の適正化(沿い, mm)	47.58	47.77	47.58~47.77m: CL 35~45°の割れ目が多く、割れ目ぞいに幅2~5mm程度で砂状~細片状化する。	
140	47.58	47.77	(岩紋区分欄)CL	47.58	47.77	(岩紋区分欄)CM	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩紋に含めた	47.58	47.77	(岩紋区分欄)CMに含める	
141	47.77	48.61	CM 堅硬で長石の白濁化も少ないが、一部で密着度の低い割れ目を含む。割れ目挟在物は分布しない。	-	-	-		47.77	48.61	47.77~48.61m: CM 堅硬で長石の白濁化も少ないが、一部で密着度の低い割れ目を含む。割れ目に挟在物は分布しない。	
142	48.61	56.69	CL 硬さ「C」と硬さ「D」が交互に分布する。密着度の低い割れ目やゆる割れ目を多く含む。割れ目ぞいに厚さ10~30mm程度まで風化による砂状化が進む部分も含む。	48.61	56.69	CL 硬さ「C」と硬さ「D」が交互に分布する。密着度の低い割れ目やゆる割れ目を多く含む。割れ目ぞいに厚さ10~30mm程度まで風化による砂状化が進む部分も含む。	・表現の適正化(沿い, mm)	48.61	56.69	48.61~56.69m: CL 硬さ「C」と「D」が交互に分布する。密着度の低い割れ目やゆる割れ目を多く含む。割れ目ぞいに幅10~30mm程度で風化による砂状化が進む部分もある。	
143	48.61	50.56	48.61~50.56mは硬さ「C」主体で、49.49m~40°厚さ15mm、50.18m~35°厚さ30mmで砂状~細片状化が進む。灰白~褐色粘土も伴っている。	48.61	50.56	48.61~50.56mは硬さ「C」主体で、49.49m~40°厚さ15mm、50.18m~35°厚さ30mmで砂状~細片状化が進む。灰白~褐色粘土も伴っている。	・表現の適正化(mm)	48.61	50.56	48.61~50.56m: 硬さ「C」主体で、49.49m~40°の幅15mm、50.18m~35°の幅30mmで砂状~細片状化が進む。灰白~褐色粘土も伴う。	
144	-	-	-	48.78	48.79	上端38° 下端50°の割れ目に幅10mmの砂状~細片状化を含む。明褐色粘土を伴う。	・砂状~細片状化は周囲と異なる状況であるため追記した	48.78	48.79	48.78~48.79m: 上端38°、下端50°の割れ目に幅10mmの砂状~細片状化を含む。明褐色粘土を伴う。	
145	50.00	50.42	70°前後の微細な風化割れ目が数条打ちながら連続する。これらの割れ目はハンマーの強打で分離するものもある。	-	-	-		50.00	50.42	50.00~50.42m: 70°前後の風化した微細な割れ目が数条打ちながら連続する。一部はハンマーの強打で分離する。	
146	50.56	51.16	硬さ「D」主体で、30~50° 割れ目が多く割れ目ぞいに厚さ1~2mmと薄く砂状部をはさんでいることが多い。岩片自身も上下位に比べ軟質化している。	50.56	51.16	硬さ「D」主体で、30~50° 割れ目が多く割れ目ぞいに厚さ1~2mmと薄く砂状部をはさんでいることが多い。岩片自身も上下位に比べ軟質化している。	・表現の適正化(狭む, 沿い, mm, 軟質化)	50.56	51.16	50.56~51.16m: 硬さ「D」主体で、30~50°の割れ目が多く、割れ目ぞいに幅1~2mmで薄く砂状化することが多い。岩片自身も上下位に比べ軟質化する。	
147	-	-	-	51.16	51.45	51.16m、51.45mに35°、49°の割れ目に幅1~3mmの褐色粘土を含む。	・褐色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した	51.16	51.45	51.16m、51.45mの35°、49°の割れ目に幅1~3mmの褐色粘土を含む。	
148	51.16	52.00	硬さ「C」主体。	-	-	-		51.16	52.00	51.16~52.00m: 硬さ「C」主体。	
149	51.35	51.64	割れ目が交差し交差部を主体として砂状部が拡大している。また白色粘土も少量伴っている。	-	-	-		51.35	51.64	51.35~51.64m: 割れ目が交差し、交差部では砂状部が拡大している。また、白色粘土も少量伴う。	

H27-B-3 52.79~58.89m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を考慮して表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を考慮して表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
150	52.00	52.32	φ10~20mm硬さ「D」[C]岩片と岩片間の碎った砂状部からなる。	52.00	52.32	φ10~20mm硬さ「D」[C]岩片と岩片間の硬質な砂状部からなる。			52.00~52.32m:径10~20mmの硬さ「D」[C]の岩片と岩片間の硬質な砂状部からなる。	
151	52.32	52.75	長石の白濁化が多いが硬さ「C」と硬質。一部で硬さ「B」も含むが一部では密着度の低い割れ目も含む。	-	-	-			52.32~52.75m:白濁化した長石が多いが、硬さ「C」と硬質。一部で硬さ「B」も含む。一部では密着度の低い割れ目も含む。	
152	52.75	53.10	岩片自身も硬さ「D」と軟化する。一部で硬さ「C」も残留。	52.75	53.10	岩片自身も硬さ「D」と軟質化する。一部で硬さ「C」も残留。			52.75~53.10m:岩片自身も硬さ「D」と軟化する。一部で硬さ「C」が残留する。	
153	53.10	55.82	密着度の低い割れ目が多く、一部ですでに開口化している。割れ目の一部は砂状化し、白色粘土を伴うことが多い。色が「橙色」を帯びるようになる。	-	-	-			53.10~55.82m:密着度の低い割れ目が多く、一部で開口化する。割れ目の一部は砂状化し、白色粘土を伴うことが多い。橙色を帯びる。	
154	53.40	53.60	硬さ「B」に近い。また割れ目の挟在物も殆んど分布しない。	53.40	53.60	硬さ「B」に近い。また割れ目の挟在物も殆んど分布しない。			53.40~53.60m:硬さ「B」に近い。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。	
155	-	-	-	53.79	53.81	上端23'、下端39'の割れ目の間が砂状~薄片状を呈する。			53.79~53.81m:上端23'、下端39'の割れ目の間が砂状~薄片状を呈する。	
156	53.85	54.31	割れ目挟在物少ない。	53.85	54.31	挟在物を伴う割れ目は少ない。			53.85~54.31m:挟在物を伴う割れ目は少ない。	
157	54.35	54.59	割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	54.35	54.59	割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。			54.35~54.59m:割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	
158	55.08	55.55	割れ目ぞい砂状化が進み砂や粘土をはさむ割れ目が多い。	55.08	55.55	割れ目ぞい砂状化が進み砂や粘土を挟む割れ目が多い。			55.08~55.55m:割れ目ぞいに砂状化が進み、砂や粘土を挟むことが多い。	
159	55.08	55.08	25' 厚さ5~10mmの淡黄色粘土をはさむ。粘土直下に厚さ10mm砂状部様う。	55.08	55.08	25' 厚さ1mmの淡黄色粘土(挟む)。粘土直下に厚さ10mm砂状部様う。			55.08m:25'で幅1mmの淡黄色粘土を挟む。粘土直下に幅10mmの砂状部を伴う。	
160	55.82	56.69	割れ目に挟在物が分布しないことが多い。	55.82	56.69	挟在物を伴わない割れ目が多い。			55.82~56.69m:挟在物を伴わない割れ目が多い。	
161	56.00	56.30	73~90'で湾曲して伸びる高角度割れ目を境として、下半分側は塊状~岩片状を呈する。	56.00	56.30	73~90'で湾曲して伸びる高角度割れ目を境として、下半分側は塊状~岩片状を呈する。			56.00~56.30m:73~90'で湾曲して伸びる高角度割れ目を境として、下半分側は塊状~岩片状を呈する。	
162	56.69	56.72	破砕帯(主せん断面56.72m)	56.69	56.72	破砕帯(最新活動面56.72m)			●56.69~56.72m:破砕帯 56.69~56.72m:粘土混じり岩片状部(H) 上端30'で波打って、下端31'で直線的に連続。径3~10mmの硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状~粘土化部からなる。下位のHe-1の粘土の近傍では、それに平行~ほぼ平行な微細割れ目も分布する。色調は淡黄(2.5Y7/3)~黄灰(2.5Y6/1)。厚さ20mm。 56.72m:粘土状部(H-1) 傾斜31'で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をわずかに(5%以下)含む。軟質。淡黄色を呈する。幅1mm。	
163	56.69	56.72	H 上端30'で波打って、下端31'で直線的に連続。φ3~10mm硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状~粘土化部からなる。「粘土混じり岩片状」。下位のHe-1の粘土の近傍では、それに平行~ほぼ平行な微細割れ目も分布。色調は淡黄(2.5Y7/3)~黄灰色(2.5Y6/1)。厚さ20mm。	56.69	56.72	H 上端30'で波打って、下端31'で直線的に連続。φ3~10mm硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状~粘土化部からなる。「粘土混じり岩片状」。下位のHe-1の粘土の近傍では、それに平行~ほぼ平行な微細割れ目も分布。色調は淡黄(2.5Y7/3)~黄灰色(2.5Y6/1)。厚さ20mm。			●56.69~56.72m:破砕帯 56.69~56.72m:粘土混じり岩片状部(H) 上端30'で波打って、下端31'で直線的に連続。径3~10mmの硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状~粘土化部からなる。下位のHe-1の粘土の近傍では、それに平行~ほぼ平行な微細割れ目も分布する。色調は淡黄(2.5Y7/3)~黄灰色(2.5Y6/1)。厚さ20mm。 56.72m:粘土状部(H-1) 傾斜31'で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をわずかに(5%以下)含む。軟質。淡黄色を呈する。幅1mm。	
164	56.72	56.72	He-1 31'で上下端ともに直線的に連続。φ1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む軟質粘土(砂状)。色調は淡黄(2.5Y8/3)。厚さ1mm。	56.72	56.72	He-1 31'で上下端ともに直線的に連続。φ1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む軟質粘土(砂状)。色調は淡黄(2.5Y8/3)。厚さ1mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。			●56.69~56.72m:破砕帯 56.69~56.72m:粘土混じり岩片状部(H) 上端30'で波打って、下端31'で直線的に連続。径3~10mmの硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状~粘土化部からなる。下位のHe-1の粘土の近傍では、それに平行~ほぼ平行な微細割れ目も分布する。色調は淡黄(2.5Y7/3)~黄灰色(2.5Y6/1)。厚さ20mm。 56.72m:粘土状部(H-1) 傾斜31'で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をわずかに(5%以下)含む。軟質。淡黄色を呈する。幅1mm。	
165	56.72	57.29	D 割れ目ぞいに砂状化が拡大し一部で砂塊状を呈するが岩組織や割れ目の一部は残留する。	56.72	57.29	D 割れ目ぞいに砂状化が拡大し、一部で砂塊状を呈するが、原岩組織や割れ目の一部は残留する。			56.72~57.29m:割れ目ぞいに砂状化が拡大し、一部で砂塊状を呈するが、原岩組織や割れ目の一部は残留する。	
166	56.94	57.02	マンガン鉱染により黒褐色化。	-	-	-			56.94~56.97m、57.00~57.02m:マンガン鉱染により黒褐色化する。	
167	57.29	58.89	CL 40~50' 割れ目主体であるが、これらに斜交するものも多い割れ目密集部。砂を主体とする割れ目挟在物が多い。58.5m以深では斑点状~脈状のマンガン鉱染部が点在する。	-	-	-			57.29~58.89m:CL 40~50'の割れ目が主体で、これらに斜交するものも多い割れ目密集部。砂を主体とする割れ目の挟在物が多い。58.5m以深は斑点状~脈状のマンガン鉱染部が点在する。	

H27-B-3 58.68~60.00m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードの適正化している場合は、それの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を考慮して表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
168	58.68	58.82	10' 幅1~3m/m, 58.82m~45' 幅7m/mの石英脈分布。 (層級区分)D	58.68	58.82	10' 幅1~3mm, 58.82m~45' 幅7mmの石英脈分布。 (層級区分)CL		58.68	58.82	58.68m~10' で幅1~3mm, 58.82m~45' で幅7mmの石英脈が分布する。 (層級区分)CLに含める	
169	58.89	58.98	破砕帯(主せん断面58.98m)	58.89	58.98	破砕帯(最新活動面58.98m)		58.89	58.98	破砕帯(最新活動面)CLに含める	
171	58.89	58.94	H 上端20' で直線的に、下端25' で波打って連続。20~30' とこれに直交~斜交する割れ目でφ3~5mmに細片化。岩片間の一部に淡黄~灰白色軟質粘土はさむ。硬さ「E」主体の「粘土混じり岩片状」呈する。 色調は褐灰色(10YR4/1)。厚さ40mm。	58.89	58.94	H 上端20' で直線的に、下端25' で波打って連続。20~30' とこれに直交~斜交する割れ目でφ3~5mmに細片化。岩片間の一部に淡黄~灰白色軟質粘土はさむ。硬さ「E」主体の「粘土混じり岩片状」呈する。 色調は褐灰色(10YR4/1)。厚さ40mm。 やや硬質。細粒部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。		58.89	58.94	●58.89~58.98m 破砕帯 58.89~58.94m 粘土混じり岩片状部(H) 上端20' で直線的に、下端25' で波打って連続。20~30' とこれに直交~斜交する割れ目で径3~5mmに細片化し、硬さ「E」主体の岩片と、岩片間の一部に淡黄~灰白色軟質粘土を挟む。褐灰色を呈する。幅40mm。 58.94~58.96m 粘土混じり砂状部(H) 傾斜25' で下端とも波打って連続。径2~4mmの石英粒、径5mmの硬さ「D」岩片からなる。やや硬質、にぶい黄褐色を呈する。幅15mm。 58.96~58.98m 濃泥しり粘土状部(Hc-2) 傾斜25' で上端は波打って連続。下端は直線的に連続。径2~3mmの石英粒、硬質岩片を5~10%含む。軟質、オリーブ色帯びる灰白色を呈する。幅15mm。	・種軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
172	58.94	58.96	Hb 25' で上下端とも波打って連続。φ2~4mm/m石英粒、φ5mm硬さ「D」岩片からなるφ20~30%含む半面結状の「硬質粘土状」呈する。 色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)。厚さ15mm/m。	58.94	58.96	Hb 25' で上下端とも波打って連続。φ2~4mm石英粒、φ5mm硬さ「D」岩片からなるφ20~30%含む半面結状の「硬質粘土状」呈する。 色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)。厚さ15mm。 やや硬質。細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。		58.94	58.96	58.94~58.96m 破砕帯 58.94~58.96m 粘土混じり岩片状部(H) 上端20' で直線的に、下端25' で波打って連続。20~30' とこれに直交~斜交する割れ目で径3~5mmに細片化し、硬さ「E」主体の岩片と、岩片間の一部に淡黄~灰白色軟質粘土を挟む。褐灰色を呈する。幅40mm。 58.96~58.98m 濃泥しり粘土状部(Hc-2) 傾斜25' で上端は波打って連続。下端は直線的に連続。径2~3mmの石英粒、硬質岩片を5~10%含む。軟質、オリーブ色帯びる灰白色を呈する。幅15mm。	
173	58.96	58.98	Hc-2 25' で上下端とも波打って連続。φ2~3mm/m石英粒、硬質岩片を5~10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調はオリーブ色帯びる灰白(7.5Y4/2)。厚さ15mm/m。	58.96	58.98	Hc-2 25' で上端は波打って連続。下端は直線的に連続。φ2~3mm/m石英粒、硬質岩片を5~10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調はオリーブ色帯びる灰白色(7.5Y4/2)。厚さ15mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。		58.96	58.98	58.96~58.98m 破砕帯 58.96~58.98m 粘土混じり岩片状部(H) 上端20' で直線的に、下端25' で波打って連続。20~30' とこれに直交~斜交する割れ目で径3~5mmに細片化し、硬さ「E」主体の岩片と、岩片間の一部に淡黄~灰白色軟質粘土を挟む。褐灰色を呈する。幅40mm。	
174	58.94	58.96	(破砕帯区分)Hb	58.94	58.96	(破砕帯区分)Hb		58.94	58.96	(破砕帯区分)Hb	
175	58.98	58.99	CL 59.50m以深では粘土をはさむことが多い。	58.89	58.99	CL 59.50m以深では粘土をはさむことが多い。		58.89	58.99	58.89~58.99m CL 59.50m以深は粘土を挟むことが多い。	
176	59.69	59.75	(層級区分)D	59.69	59.75	(層級区分)CL		59.69	59.75	(層級区分)CLに含める	
177	59.69	59.75	破砕帯(主せん断面59.69m)	59.69	59.75	破砕帯(最新活動面59.69m)		59.69	59.75	●59.69~59.75m 破砕帯 59.69m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜52' で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない。軟質、黄褐色を呈する。幅1mm。 59.69~59.75m 砂混じり岩片状部(H) 上端52'、下端37' でともに直線的に連続。径6~20mmの硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。粘土は分布しない。にぶい黄褐色を呈する。幅40~60mm。	・種軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
178	59.69	59.69	Hc-1 25' で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は黄褐色(10YR5/6)。厚さ1mm/m	59.69	59.69	Hc-1 25' で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は黄褐色(10YR5/6)。厚さ1mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。		59.69	59.69	59.69~59.75m 破砕帯 59.69m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜52' で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない。軟質、黄褐色を呈する。幅1mm。 59.69~59.75m 砂混じり岩片状部(H) 上端52'、下端37' でともに直線的に連続。径6~20mmの硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。粘土は分布しない。にぶい黄褐色を呈する。幅40~60mm。	
179	59.69	59.75	H 上端52'、下端37' でともに直線的に連続。φ5~20mm硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。「砂混じり岩片状」呈する。粘土は分布しない。色調はにぶい黄褐色(7.5YR7/3)。厚さ40~60mm。	59.69	59.75	H 上端52'、下端37' でともに直線的に連続。φ5~20mm硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。「砂混じり岩片状」呈する。粘土は分布しない。色調はにぶい黄褐色(7.5YR7/3)。厚さ40~60mm。 細粒部は局所的に分布する。やや硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。		59.69	59.75	59.69~59.75m 破砕帯 59.69m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜52' で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない。軟質、黄褐色を呈する。幅1mm。 59.69~59.75m 砂混じり岩片状部(H) 上端52'、下端37' でともに直線的に連続。径6~20mmの硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。粘土は分布しない。にぶい黄褐色を呈する。幅40~60mm。	
180	59.75	60.00	CL 割れ目存在物の分布は少ない。	59.75	60.00	CL 存在物を伴う割れ目は少ない。		59.75	60.00	59.75~60.00m CL 存在物を伴う割れ目は少ない。	

H27-B-3 60.00~65.19m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事と削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事と削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
181	60.00	61.40	CM 密着度の低い割れ目や中庸割れ目を多く含む。 割れ目の挟在物は少ない。 各割れ目と岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。	60.30	61.40	CM 密着度の低い割れ目や中庸割れ目を多く含む。 挟在物を伴う割れ目は少ない。 各割れ目と岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。	60.00	61.40	60.00~61.40m:CM 密着度の低い割れ目や中庸割れ目を多く含む。挟在物を伴う割れ目は少ない。 各割れ目と岩芯の一部は弱くマンガン鉱染を受ける。	-
182	-	-	-	61.18	61.23	上端30°、下端33°、割れ目の上下端は流打っている。一部砂状化。マンガン鉱染が見られる。	61.18	61.23	61.18~61.23m:上端30°、下端33°の割れ目の上下端は流打っている。一部砂状化する。マンガン鉱染が見られる。	-
183	61.40	61.67	(岩級区分欄)CL	61.40	61.67	(岩級区分欄)CM	61.40	61.67	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた (岩級区分欄)OMIに含める	-
184	61.40	61.67	CL 割れ目ぞいに砂状化が進む。	61.40	61.67	CL 割れ目ぞいに砂状化が進む。	61.40	61.67	61.40~61.67m:CL 割れ目ぞいに砂状化が進む。	-
185	61.47	61.51	マンガン鉱染により黒褐色化する。	-	-	-	61.47	61.51	61.47~61.51m:マンガン鉱染により黒褐色化する。	-
186	61.67	62.23	CM 岩片の一部は堅硬な硬さ「B」も含む。 割れ目挟在物はないが軽微なマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。	61.67	62.23	CM 岩片の一部は堅硬な硬さ「B」も含む。 割れ目挟在物はないが軽微なマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。	61.67	62.23	61.67~62.23m:CM 岩片の一部は堅硬な硬さ「B」も含む。割れ目に挟在物はないが、弱くマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。	-
187	62.23	64.25	CL 硬さ「D」と「C」が繰り返し分布する。 全体に割れ目に砂や粘土類などの挟在物をはさむことが多い。 硬さ「D」の区間では割れ目ぞいに砂状化が拡大する部分も分布する。	62.23	64.52	CL 硬さ「D」と「C」が繰り返し分布する。 全体に割れ目に砂や粘土類などの挟在物を挟むことが多い。 硬さ「D」の区間では割れ目ぞいに砂状化が拡大する部分も分布する。	62.23	64.52	62.23~64.52m:CL 硬さ「D」と「C」が繰り返し分布する。全体に割れ目に砂や粘土類などの挟在物を挟むことが多い。硬さ「D」の区間は割れ目ぞいに砂状化が拡大する部分もある。	-
188	62.82	62.93	62.82~62.93mは、5~20mm硬さD岩片と岩片間は砂状化し、砂礫状を呈する。 幅1~2mmの軟質白色粘土類も伴う。	62.82	62.93	62.82~62.93mは、5~20mm硬さD岩片と岩片間は砂状化し、砂礫状を呈する。 幅1~2mmの軟質白色粘土類も伴う。	62.82	62.93	62.82~62.93m:径5~20mmの硬さ「D」の岩片と岩片間は砂状化し、砂礫状を呈する。幅1~2mmの軟質白色粘土類も伴う。	-
189	63.03	63.03	30°割れ目ぞいに厚さ5~15mmがマンガン鉱染を受ける。	63.03	63.03	30°割れ目ぞいに幅約10mmの淡褐色粘土、幅1~2mmの淡黄色粘土を挟む。上端側は幅5~15mmでマンガン鉱染を受ける。	63.03	63.03	63.03m:30°の割れ目ぞいに幅約10mmの淡褐色粘土、幅1~2mmの淡黄色粘土を挟む。上端側は幅5~15mmでマンガン鉱染を受ける。	-
190	63.04	64.17	硬さ「C」区間では硬さ「B」も多く含む	-	-	-	63.04	64.17	63.04~64.17m:硬さ「C」区間で、硬さ「B」も多く含む。	-
191	63.60	63.70	コアチューブ引上げ時に人為的に角礫状化したもの。	-	-	-	63.60	63.70	63.60~63.70m:コアチューブ引上げ時の擾乱により角礫状化している。	-
192	64.17	64.52	割れ目ぞいに砂状化することが多く、割れ目が不明瞭(消えかかったもの)なことも多い。 岩組織は明瞭に残留している。	64.17	64.52	割れ目ぞいに砂状化することが多く、割れ目が不明瞭(消えかかったもの)なことも多い。 原岩組織は明瞭に残留している。	64.17	64.52	64.17~64.52m:割れ目ぞいに砂状化することが多く、割れ目が不明瞭になり、消滅しかかっていることも多い。原岩組織は明瞭に残留する。	-
193	64.52	66.39	CM 65.61m以降は硬さ「B」で堅硬となる。 全体として割れ目挟在物は少ない。 一部の割れ目ぞいでマンガン鉱染を強く受け黒褐色化するが劣化は伴わない。	64.52	66.39	CM 65.61m以降は硬さ「B」で堅硬となる。 全体として割れ目挟在物は少ない。 一部の割れ目ぞいでマンガン鉱染を強く受け黒褐色化するが劣化は伴わない。	64.52	66.39	64.52~66.39m:CM 65.61m以降は硬さ「B」で堅硬となる。全体として割れ目に挟在物は少ない。一部の割れ目ぞいでマンガン鉱染を強く受け、黒褐色化するが、劣化は伴わない。	-
194	-	-	-	64.66	64.66	63°の割れ目に幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。	64.66	64.66	64.66m:63°の割れ目に幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。	-
195	-	-	-	64.78	64.84	上下端45°の割れ目間及び周辺が明青灰色を呈する。マンガン鉱染が見られる。一部砂状化する。	64.78	64.84	64.78~64.84m:上下端45°の割れ目間及び周辺が明青灰色を呈する。マンガン鉱染が見られる。一部砂状化する。	-
196	65.19	65.19	38°割れ目ぞい厚さ10mmで軟化進む。薄い砂状部をはさむ。	65.19	65.19	38°割れ目ぞい厚さ10mmで軟質化進む。薄い砂状部を挟む。	65.19	65.19	65.19m:38°の割れ目ぞいに幅10mmで軟質化が進む。薄い砂状部を挟む。	-

H27-B-3 65.34~71.72m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事と削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
197	65.34	65.34	35° 割れ目厚さ25mmの石英質部で硬質、淡緑灰色緑泥石化。黒褐色マンガン化するが劣化は伴わない。	65.34	65.34	35° 割れ目厚さ25mmの硬質な石英質部を伴う。緑泥石による淡緑灰色化及びマンガンによる黒褐色化するが劣化は伴わない。		65.34	65.34	65.34m:35° の割れ目厚さに幅25mmの硬質な石英質部を伴う。緑泥石による淡緑灰色化及びマンガンによる黒褐色化するが、劣化は伴わない。	-
198	65.59	65.59	35° 割れ目厚さ20mm/mが砂状化~φ5mm/細片化。	65.59	65.59	35° 割れ目厚さ20mmが砂状化~φ5mm/細片化。		65.59	65.59	65.59m:35° の割れ目厚さに幅20mmが砂状化~径5mmの細片化する。	-
199	65.61	65.61	35° 割れ目を境として以深は堅硬化する。	65.61	65.61	35° 割れ目を境として以深は堅硬となる。		65.61	65.61	65.61m:35° の割れ目を境として以深は堅硬となる。	-
200	66.09	66.09	55° 割れ目厚さ砂状化部はさび。マンガン鉱染も伴っている。	66.09	66.09	55° 割れ目厚さ砂状化部はさび。マンガン鉱染も伴っている。		66.09	66.09	66.09m:55° の割れ目厚さに砂状化部を挟む。マンガン鉱染も伴う。	-
201	66.37	66.40	割れ目厚さ30~40mm淡緑灰色の緑泥石化。砂~粘土化部など劣化は伴わない。	66.37	66.40	割れ目厚さ30~40mm淡緑灰色の緑泥石化。砂~粘土化部など劣化は伴わない。		66.37	66.40	66.37~66.40m:割れ目厚さに幅30~40mmの淡緑灰色の緑泥石化する。砂~粘土化部など劣化は伴わない。	-
202	66.39	68.06	CL 割れ目には砂を主体とした挟在物が多い。一部で割れ目厚さの砂状化が拡大する部分もある。密着度の低い褐色化した風化割れ目も多くハンマーの軽打で分離・細片化することが多い。	66.39	68.06	CL 割れ目には砂を主体とした挟在物が多い。一部で割れ目厚さの砂状化が拡大する部分もある。密着度の低い褐色化した風化割れ目も多くハンマーの軽打で分離・細片化することが多い。		66.39	68.06	66.39~68.06m:CL 割れ目には砂を主体とした挟在物が多い。一部で割れ目厚さの砂状化が拡大する部分もある。密着度の低い褐色化した風化割れ目も多くハンマーの軽打で分離・細片化することが多い。	-
203	-	-	-	66.80	66.80	51° の割れ目に幅1~2mmの褐色粘土を挟む。		66.80	66.80	66.80m:51° の割れ目に幅1~2mmの褐色粘土を挟む。	-
204	-	-	-	66.98	66.98	63° の割れ目に幅2~3mmの灰白色粘土を挟む。		66.98	66.98	66.98m:63° の割れ目に幅2~3mmの灰白色粘土を挟む。	-
205	67.12	67.12	55° 割れ目厚さ5mm/mで白色シルト状部を挟む。割れ目面は褐色化する。	67.12	67.12	55° 割れ目厚さ5mmで白色シルト状部を挟む。割れ目面は褐色化する。		67.12	67.12	67.12m:55° の割れ目厚さに幅5mmで白色シルト状部を挟む。割れ目面は褐色化する。	-
206	67.30	67.70	60~90° の高角度割れ目に囲まれてφ10mm前後で岩片化する。岩片間の一部は厚さ2~3mm砂状化する。	67.30	67.70	60~90° の高角度割れ目に囲まれてφ10mm前後で岩片化する。岩片間の一部は厚さ2~3mm砂状化する。		67.30	67.70	67.30~67.70m:60~90° の高角度割れ目に囲まれて径10mm前後で岩片化する。岩片間の一部は幅2~3mmで砂状化する。	-
207	68.06	68.93	D 強風化で砂状化が拡大。φ10~20mm硬さ「D」「C」の残留岩片とともに「砂礫状」を呈する。	68.06	68.93	D 強風化で砂状化が拡大。φ10~20mm硬さ「D」「C」の残留岩片とともに「砂礫状」を呈する。		68.06	68.93	68.06~68.93m:D 強風化で砂状化が拡大。径10~20mmの硬さ「D」「C」の残留岩片とともに砂礫状を呈する。	-
208	68.06	68.93	(風化層)δランク	68.06	68.93	(風化層)δランク		68.06	68.93	(風化層)δランク	-
209	68.40	68.60	68.40~68.60mは硬さ「D」の岩片からなる。	-	-	-		68.40	68.60	68.40~68.60m:硬さ「D」の岩片からなる。	-
210	68.69	68.69	30° 割れ目厚さ15mm/mが硬質な淡緑灰色を呈する緑泥石化物。上端側に石英も伴う。	68.69	68.69	30° 割れ目厚さ15mmで淡緑灰色を呈する硬質な緑泥石化物が見られる。上端側に石英も伴う。		68.69	68.69	68.69m:30° の割れ目厚さに幅15mmで淡緑灰色を呈する硬質な緑泥石化物が見られる。上端側に石英も伴う。	-
211	68.93	70.10	CL 30° 前後の割れ目が主体で割れ目厚さに砂状化した砂を挟むことが多い。一部では厚さ10mm程度まで砂状化が拡大している。厚さ1mm程度の軟質白色粘土層も伴う。砂状化が進む部分では硬さ「D」主体。	68.93	70.10	CL 30° 前後の割れ目が主体で割れ目厚さに砂状化した砂を挟むことが多い。一部では厚さ10mm程度まで砂状化が拡大している。厚さ1mm程度の軟質白色粘土層も伴う。砂状化が進む部分では硬さ「D」主体。		68.93	70.10	68.93~70.10m:CL 30° 前後の割れ目が主体で割れ目厚さに砂状化した砂を挟むことが多い。一部は幅10mm程度に砂状化が拡大している。幅1mm程度の軟質白色粘土層も伴う。砂状化が進む部分では硬さ「D」主体である。	-
212	-	-	-	69.22	69.22	45° の割れ目に幅1~2mmの褐色粘土を挟む。		69.22	69.22	69.22m:45° の割れ目に幅1~2mmの褐色粘土を挟む。	-
213	69.70	-	69.70m以深では一部の割れ目と岩芯で軽微なマンガン鉱染を受けている。	-	-	-		69.70	-	69.70m以深は一部の割れ目と岩芯に弱くマンガン鉱染を受ける。	-
214	70.10	71.72	(変質層)4ランク	70.10	71.72	(変質層)3ランク		70.10	71.72	(変質層)3ランク	-

H27-B-3 70.10~75.56m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事と削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
215	70.10	71.72	D 風化と変質で著しく軟化するが、岩組織と割れ目は残留している。 局々に硬さ「D」の岩片が残留し、71.30m以深で岩片量多くなる。	70.10	71.72	D 風化と変質で著しく軟化するが、 原岩組織 と割れ目は残留している。 所々に硬さ「D」の岩片が残留し、71.30m以深で岩片量多くなる。	70.10	71.72	70.10~71.72m: D 風化と変質で著しく軟化するが、 原岩組織 と割れ目は残留する。所々に硬さ「D」の岩片が残留し、71.30m以深は岩片量が多くなる。	-
216	70.17	70.20	25° で打ってマンガンが脈状に分布、黒色呈する。下盤側厚さ10mmで硬化した緑泥石化部を伴う。	70.17	70.20	25° で打ってマンガンが脈状に分布、黒色呈する。 下盤側厚さ10mmで硬化した緑泥石化部を伴う。	70.17	70.20	70.17~70.20m: 25° で打ってマンガンが脈状に分布し、黒色を呈する。 下盤側は幅10mmで硬化した緑泥石化部を伴う。	-
217	70.20	71.30	粘土化ないし砂状化部主体。 厚1mm白色粘土脈が網状に分布する部分もある。	70.20	71.30	粘土化ないし砂状化部主体。 幅1mm白色粘土脈が網状に分布する部分もある。	70.20	71.30	70.20~71.30m: 粘土化ないし砂状化部主体。幅1mmの白色粘土脈が網状に分布する部分もある。	-
218	71.30	-	71.30m以深は硬さ「D」岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなる。部分的にφ1~2mm石莖がマンガン鉱染により黒褐色化する。	71.30	-	71.30m以深は硬さ「D」岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなる。部分的にφ1~2mm石莖がマンガン鉱染により黒褐色化する。	71.30	-	71.30m以深は硬さ「D」の岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなる。部分的にφ1~2mmの石莖がマンガン鉱染により黒褐色化する。	-
219	71.72	72.76	CL φ10~20mm 硬さ「D」岩片からなり、一部の岩片間では粘土化~砂状化部を伴う。 全体に密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化する。	71.72	72.65	CL φ10~20mm 硬さ「D」岩片からなり、一部の岩片間では粘土化~砂状化部を伴う。 全体に密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化する。	71.72	72.65	71.72~72.65m: CL φ10~20mmの硬さ「D」の岩片からなり、一部の岩片間では粘土化~砂状化部を伴う。全体に密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化する。	-
220	72.12	72.17	30° 割れ目では面ぞいに褐色化し、砂状化も拡大している。	72.12	72.17	30° 割れ目では面ぞいに褐色化し、砂状化も拡大している。	72.12	72.17	72.12~72.17m: 30° の割れ目ぞいに褐色化し、砂状化も拡大する。	-
221	72.65	73.38	-	-	-	72.65	73.38	72.65~73.38m: D	-	
222	72.93	73.11	強変質で岩組織と割れ目は消滅し細砂礫状を呈する。 上記区間以外は岩組織と割れ目の一部は残留している。また、硬さ「D」の岩片も一部で残留する。	72.93	73.11	強変質で 原岩組織 と割れ目は消滅し細砂礫状を呈する。 上記区間以外は 原岩組織 と割れ目の一部は残留している。また、硬さ「D」の岩片も一部で残留する。	72.93	73.11	72.93~73.11m: 強変質で原岩組織と割れ目は消滅し、細砂礫状を呈する。上記区間以外は原岩組織と割れ目の一部は残留する。また、硬さ「D」の岩片も一部で残留する。	-
223	72.93	73.11	(変質欄)4ランク	72.93	73.11	(変質欄)3ランク	72.93	73.11	(変質欄)3ランク	-
224	73.18	73.19	20° 割れ目ぞいに厚さ10~15mmでマンガンが脈状に分布。	73.18	73.19	20° 割れ目ぞいに厚さ10~15mmでマンガンが脈状に分布。	73.18	73.19	73.18~73.19m: 20° の割れ目ぞいに幅10~15mmでマンガンが脈状に分布する。	-
225	73.38	76.23	CL 一部で硬さ「C」岩片も含むが全体的には軟質化の進んだ硬さ「D」岩片主体。 密着度の低い割れ目やゆる割れ目がφ10mm前後で密に分布する。	73.38	76.23	CL 一部で硬さ「C」岩片も含むが全体的には軟質化の進んだ硬さ「D」岩片主体。 密着度の低い割れ目やゆる割れ目が 幅10mm前後 で密に分布する。	73.38	76.23	73.38~76.23m: CL 一部で硬さ「C」の岩片も含むが、全体的には軟質化の進んだ硬さ「D」の岩片主体。 密着度の低い割れ目やゆる割れ目が幅10mm前後で密に分布する。	-
226	73.38	73.58	硬さ「C」で一部の割れ目に軟質な厚さ1~3mm灰白色粘土脈をはさむ。	73.38	73.58	硬さ「C」で一部の割れ目に軟質な厚さ1~3mm灰白色粘土脈をはさむ。	73.38	73.58	73.38~73.58m: 硬さ「C」で一部の割れ目に軟質な幅1~3mmの灰白色粘土脈を挟む。	-
227	74.04	74.04	25° 割れ目ぞいに幅約20mm軟質化進む。	74.04	74.04	25° 割れ目ぞいに 幅約20mm軟質化 進む。	74.04	74.04	74.04m: 25° の割れ目ぞいに幅約20mmで軟質化が進む。	-
228	74.29	74.48	20~30° 割れ目ぞいに褐色化とマンガン鉱染伴う。また細かい密着度の低い割れ目も密集する。	74.29	74.48	20~30° 割れ目ぞいに褐色化とマンガン鉱染伴う。また細かい密着度の低い割れ目も密集する。	74.29	74.48	74.29~74.48m: 20~30° の割れ目ぞいに褐色化とマンガン鉱染を伴う。細かい密着度の低い割れ目も密集する。	-
229	74.72	74.84	硬さ「C」主体であるが、密着度の低い割れ目も多い。	-	-	-	74.72	74.84	74.72~74.84m: 硬さ「C」主体であるが、密着度の低い割れ目も多い。	-
230	-	-	-	74.90	74.90	33° 割れ目ぞいに幅10mm程度砂状化。	74.90	74.90	74.90m: 33° の割れ目ぞいに幅10mm程度で砂状化する。	-
231	75.05	75.56	割れ目の一部に幅1~2mmの白色軟質粘土が脈状にはさまれる。	75.05	75.56	割れ目の一部に幅1~2mmの白色軟質粘土が脈状にはさまれる。	75.05	75.56	75.05~75.56m: 割れ目の一部に幅1~2mmの白色軟質粘土を脈状に挟む。	-

H27-B-3 75.46~76.89m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
232	75.46	75.46	0° 幅3~5m/mの珪質部が斜交する割れ目を切って連続する。 粘土化などの劣化は伴わない。	75.46	75.46	0° 幅3~5mmの珪質部が斜交する割れ目を止めて連続する。 粘土化などの劣化は伴わない。 珪質部の上端・下端の割れ目に細粒部は認められない。珪質部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、珪質部と系統的な割れ目も存在しない。	75.46	75.46	75.46m:0° で幅3~5mmの珪質部が斜交する割れ目を止めて連続する。 粘土化などの劣化は伴わない。珪質部の上端・下端の割れ目に細粒部は認められない。珪質部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、珪質部と系統的な割れ目も存在しない。	
233	75.80	75.81	コアチューブ引上げ時に乱されφ10m/m前後の硬状コア化している。	75.80	75.81	コアチューブ引上げ時に乱されφ10mm前後の硬状コア化している。	75.80	75.81	75.80~75.81m:コアチューブ引上げ時の擾乱により径10mm前後の硬状コアを呈する。	
234	76.11	76.23	10~20° の低角度割れ目が多い、一部で灰白色粘土(幅0.5m/m)をはさむ。	76.11	76.23	10~20° の低角度割れ目が多い、一部で灰白色粘土(幅0.5mm)を挟む。	76.11	76.23	76.11~76.23m:10~20° の低角度割れ目が多い、一部で幅0.5mmの灰白色粘土を挟む。	
235	76.23	76.59	D	-	-	-	76.23	76.59	76.23~76.59m:D	
236	-	76.41	76.41m以浅はφ3~5m/mに細片化する。粘土化も伴う。	-	76.41	76.41m以浅はφ3~5mmに細片化する。粘土化も伴う。	-	76.41	76.41m以浅は径3~5mmに細片化する。粘土化も伴う。	
237	76.41	-	76.41m以深は大半の割れ目が消滅している。旧割れ目跡にそってマンガンが斑点状に分布する。	76.41	-	76.41m以深は大半の割れ目が消滅している。割れ目跡に沿ってマンガンが斑点状に分布する。	76.41	-	76.41m以深は大半の割れ目が消滅する。割れ目跡に沿ってマンガンが斑点状に分布する。	
238	76.23	76.59	(風化標)δランク	76.23	76.59	(風化標)δランク	76.23	76.59	(風化標)δランク	
239	76.59	76.89	破砕帯(主せん断面76.59m)	76.59	76.89	破砕帯(最新活動面76.59m)	76.59	76.89	●76.59~76.89m:破砕帯 76.59m:粘土状部(Hc-1) 傾斜47° で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこわすか(5%以下)含む。軟質、明黄褐色を呈する。幅1mm。 76.59~76.65m:粘土質礫状部(Hb) 上端47° で、下端55° ともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化した径1~2mmの石英粒。径3~10mmの粘土化~硬さ[D]岩片を計20~30%含む。軟質、明黄褐色(2.5Y6/6)。厚さ1mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	
240	76.59	76.59	Hc-1 47° で上下端ともに直線的に連続。φ1mm石英粒をこわすか(5%以下)含む。軟質粘土(ガウジ)。色調は明黄褐色(2.5Y6/6)。厚さ1m/m。	76.59	76.59	Hc-1 47° で上下端ともに直線的に連続。φ1mm石英粒をこわすか(5%以下)含む。軟質粘土(ガウジ)。色調は明黄褐色(2.5Y6/6)。厚さ1mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	76.59	76.59	●76.59~76.89m:破砕帯 76.59m:粘土状部(Hc-1) 傾斜47° で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこわすか(5%以下)含む。軟質、明黄褐色を呈する。幅1mm。 76.59~76.65m:粘土質礫状部(Hb) 上端47° で、下端55° ともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化した径1~2mmの石英粒。径3~10mmの粘土化~硬さ[D]岩片を計20~30%含む。軟質、明黄褐色(2.5Y6/6)。厚さ1mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	
241	76.59	76.65	Hb 上端48° で、下端55° ともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化したφ1~2mm石英粒。φ3~10mm粘土化~硬さ[D]岩片を計20~30%含む。軟質(「粘土質礫状部」を呈する。主せん断面とほぼ平行な細かい割れ目が4条分布。色調は灰白(7.5YR8/1)~にぶい橙(7.5YR7/3)。厚さ40~50m/m。	76.59	76.65	Hb 上端47° で、下端55° ともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化したφ1~2mm石英粒。φ3~10mm粘土化~硬さ[D]岩片を計20~30%含む。軟質(「粘土質礫状部」を呈する。主せん断面とほぼ平行な細かい割れ目が4条分布。色調は灰白(7.5YR8/1)~にぶい橙(7.5YR7/3)。厚さ40~50mm。やや軟質で、含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	76.59	76.65	●76.59~76.89m:破砕帯 76.59m:粘土状部(Hc-1) 傾斜47° で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこわすか(5%以下)含む。軟質、明黄褐色を呈する。幅1mm。 76.59~76.65m:粘土質礫状部(Hb) 上端47° で、下端55° ともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化した径1~2mmの石英粒。径3~10mmの粘土化~硬さ[D]岩片を計20~30%含む。軟質、明黄褐色(2.5Y6/6)。厚さ1mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。 ●76.65~76.89m:破砕帯 76.65m:粘土質礫状部(Hb) 上端55° で、下端37° ともに直線的に連続。径3~10mmの硬さ[D]~粘土化した岩片と岩片間の粘土化部からなる。76.70mと76.78mに破砕部上端側のHc-1の粘土と平行方向に各々55°、33° のせん断面が分布する。一部でマンガン鉱染を伴う。にぶい橙~灰白色を呈する。	
242	76.65	76.89	Hj 上端55° で、下端37° ともに直線的に連続。φ3~10mm硬さ[D]~粘土化岩片と岩片間の粘土化部からなり、「粘土混じり岩片状」を呈する。76.70mと76.78mに主せん断面と平行方向に各々55°、33° のせん断面(s)が分布。一部でマンガン鉱染を伴う。色調はにぶい橙(7.5YR7/4)~灰白(7.5YR8/2)。厚さ240m/m(コア長)。	76.65	76.89	Hj 上端55° で、下端37° ともに直線的に連続。φ3~10mm硬さ[D]~粘土化岩片と岩片間の粘土化部からなり、「粘土混じり岩片状」を呈する。76.70mと76.78mに破砕部上端側のHc-1の粘土と平行方向に各々55°、33° のせん断面(s)が分布。一部でマンガン鉱染を伴う。色調はにぶい橙(7.5YR7/4)~灰白(7.5YR8/2)。厚さ240mm(コア長)。 やや軟質、含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	76.65	76.89	●76.59~76.89m:破砕帯 76.59m:粘土状部(Hc-1) 傾斜47° で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこわすか(5%以下)含む。軟質、明黄褐色を呈する。幅1mm。 76.59~76.65m:粘土質礫状部(Hb) 上端47° で、下端55° ともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化した径1~2mmの石英粒。径3~10mmの粘土化~硬さ[D]岩片を計20~30%含む。軟質、明黄褐色(2.5Y6/6)。厚さ1mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。 ●76.65~76.89m:破砕帯 76.65m:粘土質礫状部(Hb) 上端55° で、下端37° ともに直線的に連続。径3~10mmの硬さ[D]~粘土化した岩片と岩片間の粘土化部からなる。76.70mと76.78mに破砕部上端側のHc-1の粘土と平行方向に各々55°、33° のせん断面が分布する。一部でマンガン鉱染を伴う。にぶい橙~灰白色を呈する。	

H27-B-3 76.89~85.03m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
243	76.89	79.15	CL 硬さ「D」岩片主体であるが部分的に硬さ「C」も含む。 割れ目ぞいに粘土化と砂状化が進む。特に破砕帯直下の76.89~77.00mで粘土化が進んでいる。 割れ目はシャープで明瞭なものも多いが、一部で消滅しかかっているものもある。 70~80°の高角度系を主体に、密着度が低い割れ目も多い。	76.89	79.15	CL 硬さ「D」岩片主体であるが部分的に硬さ「C」も含む。 割れ目ぞいに粘土化と砂状化が進む。特に破砕帯直下の76.89~77.00mで粘土化が進んでいる。 割れ目はシャープで明瞭なものも多いが、一部で消滅しかかっているものもある。 70~80°の高角度系を主体に、密着度が低い割れ目も多い。		76.89	79.15	76.89~79.15m: CL 硬さ「D」の岩片主体であるが、部分的に硬さ「C」も含む。割れ目ぞいに粘土化と砂状化が進む。特に上位の破砕帯直下の76.89~77.00mで粘土化が進む。割れ目はシャープで明瞭なものも多いが、一部で消滅しかかっているものもある。 70~80°の高角度系を主体に、密着度が低い割れ目も多い。
244	77.58	77.65	φ10m前後の大型の石英斑晶が点在。	77.58	77.65	φ10mm前後の大型の石英斑晶が点在。		77.58	77.65	77.58~77.65m: 径10mm前後の大型の石英斑晶が点在。
245	77.71	77.77	φ5~10mm/㎡細片状~糊状砂状量する。	77.71	77.77	φ5~10mm/㎡細片状~硬質な砂状量する。		77.71	77.77	77.71~77.77m: 径5~10mmで細片状~硬質な砂状を量する。
246	77.79	77.85	硬さ「C」と硬化する。	-	-	-		77.79	77.85	77.79~77.85m: 硬さ「C」と硬化する。
247	78.05	-	78.05m以深では白色粘土細脈の分布が多くなる。	-	-	-		78.05	-	78.05m以深は白色粘土細脈の分布が多くなる。
248	79.15	81.18	(変質欄)4ランク	79.15	81.03	(変質欄)3ランク		79.15	81.03	(変質欄)3ランク
249	79.15	85.03	D 主として変質による粘土化が進み、著しく軟質化している。 一部でφ5~20mm程度の硬さ「D」岩片が残留。 また全体的に岩組織と割れ目の一部は残留する。 割れ目は10~30°と低角度系が主体。	79.15	84.89	D 主として変質による粘土化が進み、著しく軟質化している。 一部でφ5~20mm程度の硬さ「D」岩片が残留。 また全体的に岩組織と割れ目の一部は残留する。 割れ目は10~30°と低角度系が主体。		79.15	84.89	79.15~85.03m: D 主として変質による粘土化が進み、著しく軟質化している。一部で径5~20mm程度の硬さ「D」の岩片が残留する。全体に原岩組織と割れ目の一部は残留する。割れ目は10~30°の低角度系が主体である。
250	-	-	-	79.37	79.49	上端42°、下端39°の割れ目の間は、岩片状~一部砂状。		79.37	79.49	79.37~79.49m: 上端42°、下端39°の割れ目の間は、岩片状~一部砂状を量する。
251	80.14	80.31	幅1m/m、長さ10~20m/mの細脈状にマンガンが密集する。	80.24	80.31	幅1mm、長さ10~20mmの細脈状にマンガンが密集する。		80.24	80.31	80.24~80.31m: 幅1mm、長さ10~20mmの細脈状にマンガンが密集する。
252	80.36	-	80.36m以深は硬さ「E」「D」(一部「C」)の岩片と、岩片間の粘土化部からなる。	-	-	-		80.36	-	80.36m以深は硬さ「E」「D」(一部「C」)の岩片と、岩片間の粘土化部からなる。
253	80.76	81.68	割れ目や岩芯の一部がマンガン汚染を受ける。	-	-	-		80.76	81.68	80.76~81.68m: 割れ目や岩芯の一部がマンガン汚染を受ける。
254	81.70	82.40	岩片間の基質の一部が風化・褐色化が進む。	-	-	-		81.70	82.40	81.70~82.40m: 岩片間の基質の一部が風化・褐色化が進む。
255	81.90	84.40	φ1~2mm/mの表面がマンガン化した石英粒(石英斑晶)が黒色で点在する。	81.90	84.40	φ1~2mmの表面がマンガンで黒色化した石英粒が点在する。		81.90	84.40	81.90~84.40m: 表面がマンガンで黒色化した径1~2mmの石英粒が点在する。
256	83.30	83.74	83.30~83.74mには硬さ「C」の硬質岩片が多く残留。	-	-	-		83.30	83.74	83.30~83.74m: 硬さ「C」の硬質岩片が多く残留する。
257	83.30	83.50	岩片間の砂状~粘土化部が風化で褐色化する。	-	-	-		83.30	83.50	83.30~83.50m: 岩片間の砂状~粘土化部が風化で褐色化する。
258	84.06	84.54	10~20°割れ目ぞいに風化で褐色化する。 また、硬さ「D」岩片が主体。	84.06	84.55	10~20°割れ目ぞいに風化で褐色化する。 また、硬さ「D」岩片が主体。		84.06	84.55	84.06~84.55m: 10~20°の割れ目ぞいに風化で褐色化する。硬さ「D」の岩片が主体。
259	84.54	84.71	砂状化が拡大している。軟質粘土も伴う。岩片部分を除き、岩組織は消滅している。	84.55	84.89	砂状化が拡大している。軟質粘土も伴う。岩片部分を除き、原岩組織は消滅している。		84.55	84.89	84.55~84.89m: 砂状化が拡大する。軟質粘土も伴う。岩片部分を除き、原岩組織は消滅する。
260	84.89	85.03	(割れ目状態欄)4ランク (コアの形状欄)4ランク (コアの硬さ欄)Eランク (岩級区分欄)D	84.89	85.03	(割れ目状態欄)3ランク (コアの形状欄)3ランク (コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)CL		84.89	85.03	(割れ目状態欄)3ランク (コアの形状欄)3ランク (コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)CL

H27-B-3 84.89~90.14m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事		上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)			上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
261	85.03	85.61	CL 一部に硬さ「C」の岩片も含むが、割れ目ぞいに砂状化する。	84.89	85.61	CL 一部に硬さ「C」の岩片も含むが、割れ目ぞいに砂状化する。	「コアに合わせて上端深度を変更した」・表現の適正化(沿い)	84.89	85.61	84.89~85.61m:CL 一部に硬さ「C」の岩片も含むが、割れ目ぞいに砂状化する。	-		
262	85.36	85.60	割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。	85.36	85.60	高角度割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。	・表現の適正化(沿い) ・砂状化が進んでいる割れ目を明記した	86.36	86.60	85.36~85.60m:高角度割れ目ぞいの砂状化が進む。	-		
263	85.28	85.32	緑泥石化し、淡緑灰色を呈する。 φ0.5mm以下の微細な黄鉄鉱を伴う。	85.28	85.32	緑泥石化し、淡緑灰色を呈する。 φ0.5mm以下の微細なセリサイト、黄鉄鉱を伴う。	・表現の適正化(mm) ・セリサイトも晶出しているため追記した	85.28	85.32	85.28~85.32m:緑泥石化し、淡緑灰色を呈する。僅0.5mm以下の微細なセリサイト、黄鉄鉱を伴う。	-		
264	85.61	91.35	D 硬さ「D」の岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなり全体として軟化が著しい。	85.61	91.35	D 硬さ「D」の岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなり全体として軟化が著しい。	・表現の適正化(軟質化)	85.61	91.35	85.61~91.35m:D 硬さ「D」の岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなり、全体として軟質化が著しい。	-		
265	85.61	87.18	(変更欄)4ランク	85.61	87.18	(変更欄)3ランク	・周囲と同程度の硬質であるため硬質のランクを3ランクに変更した	85.61	87.18	(変質欄)3ランク	-		
266	-	-	-	85.70	85.70	15°の割れ目ぞいが褐色を呈し、マンガン鉱染が見られる。	・褐色化及びマンガン鉱染が顕著な割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した	85.70	85.70	85.70m:15°の割れ目ぞいが褐色を呈し、マンガン鉱染が見られる。	-		
267	86.50	86.78	40~50°割れ目ぞいに硬さ「C」「D」の岩片が残留する。岩片中には細かい割れ目が多く、ハンマーの打撃で更に細片化するものが多い。	86.50	86.78	40~50°割れ目ぞいに硬さ「C」「D」の岩片が残留する。岩片中には細かい割れ目が多く、ハンマーの打撃で更に細片化するものが多い。	・表現の適正化(沿い)	86.50	86.78	86.50~86.78m:40~50°の割れ目ぞいに硬さ「C」「D」の岩片が残留する。岩片中には細かい割れ目が多く、ハンマーの打撃で細片化するものが多い。	-		
268	87.18	91.35	強風化による砂状化が拡大し残留する硬さ「C」「D」の岩片とともに「砂礫状」を呈する。このうち、87.18~87.52mの基質部はスライムである。	-	-	-		87.18	91.35	87.18~91.35m:強風化による砂状化が拡大し、残留する硬さ「C」「D」の岩片とともに砂礫状を呈する。87.18~87.52mの基質部はスライムである。	-		
269	87.18	87.52	(地質名欄)Gp	87.18	87.52	(地質名欄)コア欠如	・上記の記事に合わせてスライム区間を区分した	87.18	87.52	(地質名欄)コア欠如	-		
270	87.18	87.52	(割れ目状態欄)4ランク (コアの形状欄)V1ランク (コアの硬さ欄)Eランク (風化欄)δランク (変質欄)3ランク (岩級区分欄)D	87.18	87.52	(割れ目状態欄)空欄 (コアの形状欄)空欄 (コアの硬さ欄)空欄 (風化欄)空欄 (変質欄)空欄 (岩級区分欄)空欄	・スライム区間の各ランクを変更した	87.18	87.52	(割れ目状態欄)空欄 (コアの形状欄)空欄 (コアの硬さ欄)空欄 (風化欄)空欄 (変質欄)空欄 (岩級区分欄)空欄	-		
271	87.18	89.86	(色調欄)10YR6/3に及び黄橙	87.18	89.86	(色調欄)7.5YR7/2明褐灰	・コアに合わせて色調を変更した	87.18	89.86	(色調欄)明褐灰	-		
272	87.52	91.35	(風化欄)εランク	87.52	91.35	(風化欄)δランク	・上位と同様の風化の程度であるため風化のランクをδランクに変更した	87.52	91.35	(風化欄)δランク	-		
273	88.18	89.00	残留している岩片量が多くなり、割れ目も認識できるようになる。	88.18	89.00	残留している岩片量が多くなり、割れ目も認識できるようになる。	・コアに合わせて下端深度を変更した	88.18	89.00	88.18~89.00m:残留する岩片量が多くなり、割れ目も認識できるようになる。	-		
274	89.00	89.05	(割れ目状態欄)4ランク (コアの形状欄)V1ランク	89.00	89.05	(割れ目状態欄)εランク (コアの形状欄)V1ランク	・割れ目は認識でき、下位より割れ目が少ないため、割れ目状態及びコアの形状のランクを変更した	89.00	89.05	(割れ目状態欄)εランク (コアの形状欄)V1ランク	-		
275	89.00	90.14	89.00~90.14mは標に相当する岩片のみ採取され、基質に相当する砂状～粘土状部に掘進時に流失したものと推定される。	89.05	90.14	89.05~90.14mは標に相当する岩片のみ採取され、基質に相当する砂状～粘土状部に掘進時に流失したものと推定される。	・標状コアに合わせて上端深度を変更した ・掘記の修正(⇒は)	89.05	90.14	89.05~90.14m:岩片のみ採取され、基質の砂状～粘土状部は掘進時に流失したものと推定される。	-		

H27-B-3 90.14~91.59m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事と削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度		記事	上端深度	下端深度		
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)					
			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>								
276	90.15	90.55	締った砂状部と硬さ「C」主体の硬質岩片からなる砂礫状。一部で割れ目が残留している。	90.14	90.55	硬質な砂状部と硬さ「C」主体の硬質岩片からなる砂礫状。一部で割れ目が残留している。	崩記の修正(90.15⇒90.14) 表現の適正化(締った⇒硬質な)	90.14	90.55	90.14~90.55m:硬質な砂状部と硬さ「C」主体の硬質岩片からなる砂礫状。一部で割れ目が残留している。	-
277	90.55	90.85	90.55~90.85mはスライム。	-	-	-	-	90.55	90.85	90.55~90.85m:スライム。	-
278	90.55	90.85	(地質名欄)Go	90.55	90.85	(地質名欄)コア欠如	記事欄の記載に合わせて変更した	90.55	90.85	(地質名欄)コア欠如	-
279	90.55	90.85	(割れ目状岩層)Aランク (コアの形状欄)Aランク (コアの硬さ欄)空欄 (風化欄)εランク (変質欄)βランク (岩級区分欄)D	90.55	90.85	(割れ目状岩層)空欄 (コアの形状欄)空欄 (コアの硬さ欄)空欄 (風化欄)空欄 (変質欄)空欄 (岩級区分欄)空欄	スライム区間の各ランクを変更した	90.55	90.85	(割れ目状岩層)空欄 (コアの形状欄)空欄 (コアの硬さ欄)空欄 (風化欄)空欄 (変質欄)空欄 (岩級区分欄)空欄	-
280	90.85	91.00	硬質岩片のみ採取され、基質の砂状部は掘進時に流失したものと推定される。	-	-	-	-	90.85	91.00	90.85~91.00m:硬質岩片のみ採取され、基質の砂状部は掘進時に流失したものと推定される。	-
281	91.35	91.54	破砕帯(主せん断面91.44m)	91.35	91.54	破砕帯(最新活動面は91.35mか91.44mの可能性あり)	用語の統一(破砕帯→破砕部) 最新活動面という用語に統一 最新活動面の可能性がある深度を追記した				
282	91.35	91.43	Hb 上端36"で波打って、下端25"で湾曲して連続。φ2~3mm石英粒。φ3~10mm粘土化~砂状化岩片を30%程度含む軟質な「粘土質礫状」を呈する。色調は灰白(5Y8/1)~にぶい黄褐色(10YR7/2)。厚さ90m/m	91.35	91.43	Hb 上端36"で波打って、下端25"で湾曲して連続。φ2~3mm石英粒。φ3~10mm粘土化~砂状化岩片を30%程度含む軟質な「粘土質礫状」を呈する。色調は灰白(5Y8/1)~にぶい黄褐色(10YR7/2)。厚さ90mm	・硬主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(mm) ・崩記の修正(「色」の記載漏れ)			●91.35~91.54m:破砕部 91.35~91.43m:粘土質礫状(Hb) 上端36"で波打って、下端25"で湾曲して連続。径2~3mmの石英粒。径3~10mmの粘土化~砂状化した岩片を30%程度含む。軟質。灰白~にぶい黄褐色を呈する。幅80mm。 91.43~91.44m:粘土状部(Hc-1) 上端36"で波打って、下端25"で湾曲して連続。径1mmの石英粒をこわす(5%以下)に含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白(5Y8/1)。厚さ7~10mm。 91.44~91.51m:粘土質礫状(Hb) 上端25"、下端18"とともに波打って連続。径5mm前後の硬さ「D」岩片を30%程度含む。少し風化してやや軟質である。淡黄褐色を呈する。幅30~60mm。 91.51~91.54m:粘土混じり岩片状(Hi) 上端18"で波打って、下端20"で直線的に連続。下端面とほぼ平行な20~30°割れ目とこれにほぼ直交する割れ目が多く、径5mm程度の硬さ「D」の岩片に細片化する。岩片間には軟質粘土が分布する。にぶい橙褐色を呈する。幅20~25mm。	-
283	91.43	91.44	Hc-1 25"で上端は湾曲して下端は波打って連続。φ1mm石英粒をこわす(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白(5Y8/1)。厚さ7~10m/m	91.43	91.44	Hc-1 25"で上端は湾曲して下端は波打って連続。φ1mm石英粒をこわす(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白(5Y8/1)。厚さ7~10mm	・表現の統一(ガウジ→Hc-1)含んで表現 ・表現の適正化(mm) ・崩記の修正(「色」の記載漏れ) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した				
284	91.44	91.51	Hb 上端25"、下端18"とともに波打って連続。φ5mm前後の硬さD岩片を30%程度含む少し風化した軟質な「硬質礫状」を呈する。色調は淡黄褐色(10YR8/3)。厚さ30~60m/m	91.44	91.51	Hb 上端25"、下端18"とともに波打って連続。φ5mm前後の硬さD岩片を30%程度含む少し風化したや軟質な「粘土質礫状」を呈する。色調は淡黄褐色(10YR8/3)。厚さ30~60mm 含まれる細粒部は単目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・硬主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・上位に比べて粘土化が進んでいないため硬軟を変更した ・細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(mm) ・崩記の修正(「色」の記載漏れ)	91.35	91.54		
285	91.51	91.54	Hi 上端18"で波打って、下端20"で直線的に連続。下端面とほぼ平行な20~30°割れ目とこれにほぼ直交する割れ目が多くφ5mm程度の硬さDの岩片に細片化。岩片間には軟質粘土が分布。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙褐色(7.5YR7/4)。厚さ20~25m/m	91.51	91.54	Hi 上端18"で波打って、下端20"で直線的に連続。下端面とほぼ平行な20~30°割れ目とこれにほぼ直交する割れ目が多くφ5mm程度の硬さDの岩片に細片化。岩片間には軟質粘土が分布。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙褐色(7.5YR7/4)。厚さ20~25mm 軟質で、含まれる細粒部は局所的に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・硬軟、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(ほぼ、mm、軟弱⇒軟質) ・崩記の修正(「色」の記載漏れ)				
286	91.54	93.05	D φ10mm前後の硬さ「D」岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり、全体として軟化著しい。92.00m以降では石英以外は砂状化する。	91.54	92.85	D φ10mm前後の硬さ「D」岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり、全体として軟化著しい。92.00m以降では石英以外は砂状化する。	・D録の下端深度の変更に伴い、変更した ・表現の適正化(mm、軟質化)	91.54	92.85	91.54~92.85m:D 径10mm前後の硬さ「D」の岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり、全体として軟化が著しい。92.00m以降は石英以外は砂状化する。	-
287	-	-	-	91.54	91.59	上端20"、下端8"の割れ目間が強く変質し、淡色の砂礫状を呈する。	・幅の広変質した砂礫状部は周囲と異なる状況であるため追記した	91.54	91.59	91.54~91.59m:上端20"、下端8"の割れ目間が強く変質し、淡黄色の砂礫状を呈する。	-